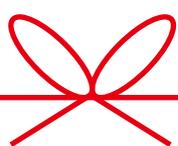


地域と大学を——



平成 26 年度  
地域大学包括連携事業報告書



2015.3

まなびの循環  
生涯学習

大阪体育大学

桃山学院大学

プール学院大学

泉大津市教育委員会



泉大津市マスコットキャラクター  
おづみん

# 発刊にあたって

「泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会」は、大阪体育大学、プール学院大学・プール学院大学短期大学部、桃山学院大学及び泉大津市教育委員会がそれぞれ保有する人的、知的、物的資源を活用しながら連携・協力することで、地域の絆や地域コミュニティの再構築および地域の活性化を目的として、平成26年度に発足いたしました。

平成26年度は連携事業の初年度として、信頼関係の醸成とネットワーク構築を図りつつ、泉大津市の社会教育における地域課題抽出や情報共有を図るため、アンケート調査、フォーラム、企画展示等を実施しました。

課題解決に向けた取組みはまだ始まったばかりですが、大学の持つ知的資源や人的資源の活用成果は徐々に地域へ浸潤し、知的土壌を造りあげつつあります。また、地域が有する文化資源や包含する課題は大学や学生に刺激を与え、新たな知見を生み出し始めています。積極的な変化の中から、主体的に学習する市民が生まれ、連携大学が地域と密接な関係を築き活性化する、そのような循環の継続とシステム化を推進する協議会でありたいと願い、本報告を発行いたします。

平成27年3月31日

泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会



## INDEX

- 3 生涯学習フォーラム 生まれる × 学び = 生涯学習  
～地域と二人三脚で成長する “学びの循環”<sup>わ</sup>～
- 21 事業報告 生涯学習施設連携事業報告
- 25 事業報告 スポーツ推進事業実施報告  
～スポーツを通じた地域活性化～
- 29 企画展・講演会「桃山学院の歴史と文化」
- 34 研究会 泉大津市の文化資源  
～桃大総研プロジェクト報告～
- 37 活動報告 学生ボランティアによる地域活動報告  
～つながる地域、広がる笑顔～
- 39 対談 行政と大学がタッグを組む  
～地域と大学の未来と可能性～
- 48 泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会設置要綱

## 生涯学習フォーラム

# 生まれる × 学び = 生涯学習

～地域と二人三脚で成長する“学びの循環”～

日時 平成27年3月1日(日)

場所 テクスピア大阪1階小ホール

基調講演 岡崎 裕 (プール学院大学教授、泉大津市社会教育委員)  
パネラー 富山 浩三 (大阪体育大学教授、泉大津市社会教育委員)  
パネラー 井上 敏 (桃山学院大学准教授、泉大津市社会教育委員)  
パネラー 車谷 喜博 (泉大津市社会教育委員会議長)  
パネラー 伊藤 晴彦 (泉大津市長)  
パネラー 富田 明德 (泉大津市教育委員会教育長)  
司会 丸山 理佳 (泉大津市教育委員会事務局生涯学習課長)

### ◆プロローグ

丸山 ただいまより、生涯学習フォーラム「地域と二人三脚で成長する“学びの循環”」を開催いたします。本日は、何かとお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私は、本日の司会を務めます生涯学習課の丸山と申します。どうぞ、よろしくお願いたします。

本日のフォーラムは、市民の皆さま方に地域における“学び”のあり方について一緒に考えていただくために開催するものです。生涯学習が市民にとって身近に感じることができ、また「学びたい」をすぐに行動に移すことができるよう、今年度から「生涯学習」「スポーツ」「博物館」の専門分野から3大学の知見を活かした連携事業を進めているところで

す。今後、泉大津市の生涯学習がどのように発展すべきかを、「基調講演」と「パネルディスカッション」を通じて考えてまいります。それでは、開会にあたりまして、伊藤晴彦泉大津市長よりごあいさつ申し上げます。

伊藤 今日の「学びの循環」をテーマとした生涯学習フォーラムは、本市としては初めての試みです。経済協力開発機構(OECD)加盟国を中心に、ヨーロッパや北米ではリカレント(循環)教育が盛んになっておりますが、日本ではあまり定着していません。



岡崎教授



富山教授



井上准教授



車谷議長



伊藤市長



富田教育長

今、泉大津市の抱える一番大きな問題は少子高齢化です。子育て世代や高齢者が安心安全に住むまちづくりを、市民・行政・大学が共同で進めていくにはどうすれば良いのかということ、フォーラムを通じて考えていければと思います。

ここ 15 年くらいは財政難ということで、生涯学習分野の予算が減ってきた現状があります。それではいけない。教育の分野でも学校教育と生涯学習が両輪となって、まちを良くしていかなくてはなりません。そのためには、市民の皆さん自身が、自分たちの市を良くするために積極的に関わっていただきたいのです。

「梅の花は百花のさきがけ」という言葉もございます。梅の花が咲き始めたこのときに開催するフォーラムが、ぜひとも泉大津で「学びの循環」をつくる第一歩となってほしいと祈念いたします。ぜひとも最後までおつきあください。

**丸山** 続きまして、本日のプログラムを説明させていただきます。第 1 部では、プール学院大学教授の岡崎先生より基調講演を行っていただきます。そして休憩を挟みまして、第 2 部では、パネルディスカッションを行います。

それでは、第 1 部 基調講演「これからの生涯学習」と題しまして、今年度「生涯学習施設」で行ったアンケートやインタビューの結果を踏まえ、プール学院大学教授 岡崎裕先生にご講演いただきたいと思っております。

岡崎先生は現在、プール学院大学教育学部の教授であり、今年度から本市の社会教育委員に就任されています。豊富な知識や経験から、本市生涯学習行政にたくさんのアドバイスをいただいております。また、基調講演の後半には、それぞれの分野の先生方からアンケート結果等につきましてご報告いただきます。博物館分野は桃山学院大学准教授の井上先生に、スポーツ分野は大阪体育大学教授の富山先生に、あわせてご報告いただく予定でございます。では、岡崎先生、よろしく願いいたします。

#### ◆基調講演

**岡崎** 「地域と二人三脚で成長する学びの循環」ということでお話をさせていただきたいと思っております。今回のテーマに「生まれる × 学び＝生涯学習」と書いてありますが、生涯学習の「生」という字を生まれると読み替えていただければ、このフォーラムが、新しい生涯学習のテーマを見つけようとする試みであることが、わかりいただけると思っております。

3 大学が泉大津市さんと連携協定を締結したご縁から、今年度から 3 大学の教員が社会教育委員をさせていただいております。私自身は教育学部の教員ですが生涯学習は専門ではありませんので、今回はいろいろと勉強する機会をいただきました。

まず、生涯学習とはそもそもどのような意味があるのか、根本的な部分を原点に立ち戻って考えてみたいと思っております。

#### ①「生涯学習」とは何か？（今改めて…）

**岡崎** 昭和 56 年の中央教育審議会答申「生涯教育について」には、「今日、変化の激しい社会にあつて、人々は、自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これをみずから選んで、生涯を通じて行うものである。その意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい。」とあります。

ここでいう「人々」とはすべての人といいますが、実際には市民のことです。私たちは現在の生活や社会環境を良くしていくために学ぼうとしています。これは間違いのないことですね。学ぼうとしている人はなにも学校を卒業した成人だけではなく、子どもも含まれます。人間は「学ぼうとする生き物なのだ」という発想です。

「これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり」ということは、学ぼうとする自分が意思の主体で、人間とはそもそも学ぶ生き物なのでおのずと学ぼうとしているのだ、ということなのです。

「必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これをみずから選んで、生涯を通じて行うものである。その意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい」とありますが、ここにはよく生涯学習で言われている「いつでも・どこでも・誰でも」学ぶ、あるいは学びうるという考えが含まれています。誰もが自分の意思で生涯を通じて学ぼうとしているのだから「生涯学習」という言葉がふさわしい、ということなのです。すると今度は、行政が市民の「生涯学習」に対する要求に応えなければなりません。それを担うのが今回のフォーラムを担当する生涯学習課であり、議論の対象である生涯学習施設ということになります。



基調講演をする岡崎教授

## ②循環型生涯学習について

**岡崎** さて、そのような生涯学習の定義を前提にして、今回のテーマである循環について考えてみたいと思います。生涯学習が定義されたのは、ずいぶん昔のことです。最初は「いつでも・どこでも・誰でも」学ぼうとする、そのための施策しか考えられてきませんでした。しかし今は、それだけではだめです。

「循環」という新しいキーワードを加え、「生涯学習の循環」をめざすことが、これからの生涯学習に求められています。では、循環とはなにか、具体的に何が循環するのか、そこを考えなければいけません。すべての市民が学ぶ存在であることを前提に、市民同士がつながり、循環することが大切です。一人が知りたいことを学んでハッピーになるだけで満足してはいけません。「輪(サークル)」になるように循環しなければいけないのです。

平成 20 年中央教育審議会の答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築をめざして～」には、「知識の重要性が増すこれからの社会においては蓄積されたさまざまな経験・知識等の『知』が継承され、さらに新たな創造や工夫につながる社会をつくることにより社会が発展していく。真の生涯学習社会の実現のためには、各個人が学習したことにより得られるさまざまな経験や知識等の『知』が社会の中で『循環』し、それがさらなる『創造』を生み出すことにより、社会全体が発展していく持続可能なシステムが社会の中に構築される必要がある。」と記されています。

「知識の重要性が増すこれからの社会においては」とありますが、知識は非常に重要です。私たち教員は、文部科学省から「知識基盤型社会を担う学生を育てなさい」と言われて、日々そのような仕事をしています。

「これからの社会においては蓄積されたさまざまな経験・知識等の『知』が継承され、」とありますが、「継承」とはつながっていくということです。一人が学んで終わりではありません。次の人たちに伝えていかなくてはなりません。

「さらに新たな創造や工夫につながる社会をつくることにより社会が発展していく」ということは、私が個人的に発展することは大切だが、次につなげなくてはいけない、という発想です。このことを次に出てくる「循環」という言葉が教えてくれます。

「真の生涯学習社会の実現のためには、各個人が学習したことにより得られるさまざまな経験や知識等の『知』が社会の中で『循環』し、それが更なる『創造』を生み出すことにより、社会全体が発展していく持続可能なシステム」とありますが、今、「持続可能」という言葉は、世界中で大きなキーワードになっています。「持続可能」を言い換えると、私たちが生き残るということです。いつまで生き残るかということ、22世紀をめざしているということです。少し前までは21世紀をめざしていました。しかし、よく考えてみると、私たちが現在教えている大学生たちが、例えば教員となって教えるころの子どもたちは、場合によれば、22世紀を生きる人たちになります。今の知識・英知ををいかに未来を生きる人たちに伝えていけるのか、つなげていけるのかが課題となるわけです。持続可能性とはまさにこういうこと。大層な話のようですが、現在、ほぼ毎年のように「観測史上初めて」というような異常気象が起きています。私たちはそういう状況の中であって、いかに21世紀を生き延びて22世紀につなげていくのか、それが問われています。

持続可能なシステムをつくるために、私たちが創造すべきものは何か。それを一言でいえば、未来を創造する責任が、学ぶものすべてに課せられている、ということです。私たちの知恵・英知は循環するものだし、循環しなければいけないものだ、ということをご皆さんに理解していただきたいのです。これは私個人の意見ではなく、文部科学省のような公的な組織が言っていることです。

では実際に、生涯学習に関わるものとして何をしなければいけないのか、何をすべきなのか。それは、指導的立場にある方、教室などで教えておられる方、学ぶ側の方、を含めてすべての市民が、今なにをなすべきなのか、ということが問題になります。

### ③ 私たちは今、何をなすべきか？

**岡崎** その答えとして、1975年にユネスコが示した一つの方向があります。そこには、「そのためには、企業による取組みのほか、図書館、博物館、文化センターなどの施設を充実させ、学校や大学などの既存教育施設を(すべての市民に)開放し、そのための指導者を養成する必要がある。」とあります。ここでいう指導者とは、「教室の先生になる人を育てる人間」というだけではありません。そこにはもっと広い意味があり、公共の施設を担う人々、さらに場合によっては利用者を含めたすべての市民が指導者になりえます。コミュニティの中で力を出し合って、循環する知恵・英知をどのように伝えるかをみんなで考えていきましょう。私自身も社会教育委員として、このような認識を持っています。皆さんもぜひ同様な思いのもとに、一緒に考えていただきたいと思います。

### ④ 生涯学習施設の利用に関するアンケート調査

**岡崎** 今後、生涯学習施設をより良いものにしていくにはどうしたらいいのか。発展的にするにはどうしたらいいのか。まずは現状を知るために、施設利用に関するアンケートを行ってみました。アンケートはすべての市民を対象にしたものではありません。あくまでも、すでに施設を利用している人を対象に実施しました。

調査の目的としては、利用者の施設利用に関するご意見に基づき、今後のスポーツ・文化活動やボランティア活動にかかる施設サービス向上のための資料を得ることでした。調査期間は平成26年11月～平成27年1月、実施場所は南公民館、北公民館、勤労青少年ホーム、織編館、池上曾根弥生学習館、総合体育館の6館でした。

調査方法は、各生涯学習施設の利用者のアンケートへの記入方式で、調査対象は877人(男性/186、女性/684)でした。集計は大阪体育大学、プール学院大学、桃山学院大学の3大学が担当しました。

男女比は21:79で、8割が女性でした。泉大津市の市民の8割が女性かということそうではないので、大きく偏りのあることがわかります。

**泉大津市の生涯学習施設の利用に関するアンケート調査**

このたび、泉大津市では大阪体育大学、フール学院大学、桃山学院大学と共同で「泉大津市の生涯学習施設の利用に関するアンケート調査」を企画いたしました。これは、利用者の皆様から施設の利用に関するご意見を伺い、今後スポーツ・文化活動やボランティア活動にかかる施設サービス向上のため、資料を得ることを目的としたものです。調査結果については統計的に処理され、学術的資料として活用されますので、個人情報保護法の観点から、回答いただいた皆様にご迷惑をおかけする事はありません。なにとぞ調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

平成 26 年 1 0 月

泉大津市教育委員会  
大阪体育大学  
フール学院大学  
桃山学院大学

【お問い合わせ先】

○ あなた自身のことについてお尋ねします。(○を付けて下さい。)

性別	1. 男性	2. 女性	
年齢	1. 10歳未満	2. 10歳代	3. 20歳代
	4. 30歳代	5. 40歳代	6. 50歳代
	7. 60歳代	8. 70歳代	9. 80歳以上
職業	1. 勤め人(フルタイム)		2. 勤め人(パートタイム)
	3. 自営業		4. 家事従事者
住所	5. 学生		6. 無職
	7. その他( )		
住所	1. 泉大津市		
	2. 泉大津市以外		

- 1 -

【問1】 あなたが今回利用した施設はどこですか。  
(あてはまるものに○)

- 1 図書館 2 市民会館 3 公民館 4 勤労青少年ホーム
- 5 弥生学習館 6 織編館 7 総合体育館
- 8 市(府)営運動場・野球場など 9 市(府)営テニスコート
- 10 市営プール 11 あすとホール 12 老人集会所
- 13 その他( )

【問2】 あなたは、この施設を一月に何回くらい利用しますか。

- 1. 1週間に
- 2. 1ヶ月に
- 3. 1年に

回程度

【問3】 あなたは、最近1年間で市内の次の施設を利用したことがありますか。  
(今回の施設を含め、あてはまるものすべてに○)

- 1 図書館 2 市民会館 3 公民館 4 勤労青少年ホーム
- 5 弥生学習館 6 織編館 7 総合体育館
- 8 市(府)営運動場・野球場など 9 市(府)営テニスコート
- 10 市営プール 11 あすとホール 12 老人集会所
- 13 その他の施設(下にお書きください)

【問4】 今回はどのような目的で来られましたか。  
(あてはまるものに○)

- 1 教養・文化・芸術活動(文学、歴史、音楽、美術、華道、茶道など)
- 2 スポーツ・レクリエーション活動
- 3 語学学習(英語、中国語、韓国語など)
- 4 職業上必要な知識・技能に関する学習(資格取得など)
- 5 家庭生活に役立つ技能に関すること(料理、洋裁、和裁、編み物など)
- 6 子育てに関すること
- 7 福祉に関すること
- 8 環境に関すること
- 9 まちづくりに関すること
- 10 P T A ・ こと 会 ・ 自 治 会 などの地域活動(\*)
- 11 ボランティア活動
- 12 その他(下にお書きください)

- 2 -

【問5】 今回の利用にあたって講座やイベントに参加された方は、その名称をお書きください。

【問6】 あなたが、この生涯学習施設を利用する理由は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 生きがいを持っていきいきと生きるため
- 2 健康や体力づくりのため
- 3 教養や能力を高めるため
- 4 学習活動自体を楽しむため
- 5 仕事や就職・転職に必要なため
- 6 人との交流や友人の輪を広げるため
- 7 地域を良くするため
- 8 特に理由はない
- 9 その他(下にお書きください)

【問7】 あなたが生涯学習活動(スポーツを含む)を行なうにあたっての課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 仕事や育児などが忙しくあまり時間がとれない
- 2 費用がかかる
- 3 学習したい講座や教室が少ない
- 4 一緒に学習する仲間が少ない
- 5 必要な情報(講座や教室などの情報)が入手しにくい
- 6 身近なところで学習する場所がない
- 7 講座や教室が行われる日や時間が合わない
- 8 特に課題はない
- 9 その他(下にお書きください)

- 3 -

【問7】 現在行なっている活動以外で、今後行なってみたい活動は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 教養・文化・芸術活動(文学、歴史、音楽、美術、華道、茶道など)
- 2 スポーツ・レクリエーション活動
- 3 語学学習(英語、中国語、韓国語など)
- 4 職業上必要な知識・技能に関する学習(資格取得など)
- 5 家庭生活に役立つ技能に関すること(料理、洋裁、和裁、編み物など)
- 6 子育てに関すること
- 7 福祉に関すること
- 8 環境に関すること
- 9 まちづくりに関すること
- 10 P T A ・ こと 会 ・ 自 治 会 などの地域活動
- 11 ボランティア活動
- 12 特にない
- 13 その他(下にお書きください)

【問8】 あなたが参加している地域活動グループやサークルの課題は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- 1 活動資金が乏しい
- 2 メンバーが少ない
- 3 リーダーに指導力がない
- 4 次のリーダーの担い手がない
- 5 活動する場所や機会が少ない
- 6 活動内容などの情報発信力が乏しい
- 7 他のサークルやグループとの連携が取りにくい
- 8 特にない
- 9 その他(下にお書きください)

以上でアンケート調査は終了です。  
ありがとうございました。

- 4 -

年齢は、1番多いのが60歳代、2位70代、3位80代、4位50代。全体の8割以上が50歳以上、60歳以上が全体の6割。利用者の相当部分が高齢者だといえます。

職業は、圧倒的に無職が多く、学生は0.3%とほとんどいません。次に多いのが家事従事者、いわゆる主婦の方々です。おおむね生涯学習施設を利用する人はほとんどフルタイムの職を持たない人が利用しています。生涯学習施設は誰のものかと考えたときに、これは「いつでも・誰でも・どこでも」という要請にこたえているのか、疑問の残る点です。

利用者の居住地はほとんどが泉大津でした。

「利用した施設はどこですか」という問いは、公民館が圧倒的に多かったです。「1年間に利用した施設」についても公民館が圧倒的に多かったです。このアンケートをとるにあたり、市内の施設をいくつか実際に回って話を聞いたところ、勤労青少年ホームも実質的には公民館的な施設となっていると聞きました。公民館と勤労青少年ホームの利用が多いということは、泉大津市の生涯学習を考えるときに公民館の位置づけが大きいということです。

来館目的については、教養・文化・芸術が圧倒的に多かったです。公民館における文化的利用がこれにあたると考えられます。自分が学ぶためだけに利用しているという傾向が強いと感じます。私自身が学んで、楽しみ、知識を増やす、そのために利用されているという印象を受けます。

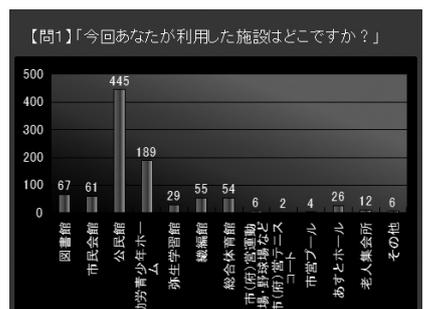
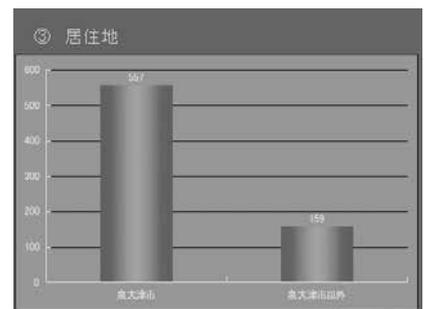
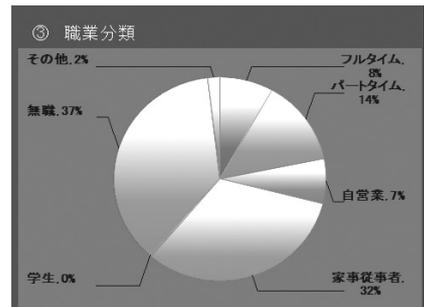
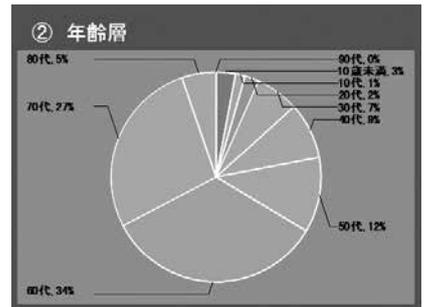
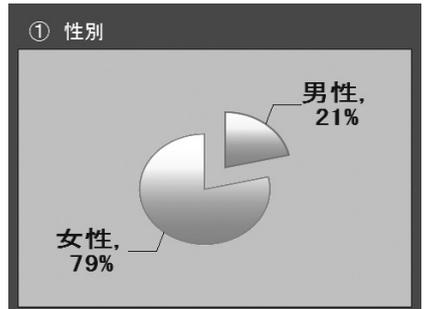
施設利用の理由については、生きがい、健康のため、自分が学ぶ、という意識で活動している人もいますが、トップは人との交流を広げることです。「社会の一員として交流の幅を広げるんだ」という意識が強いことがうかがえます。

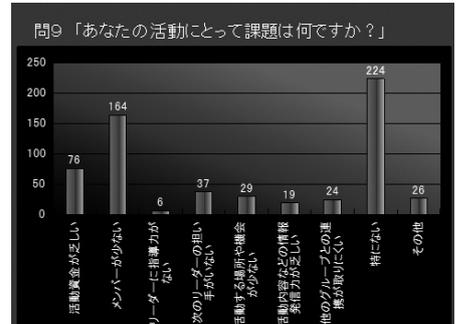
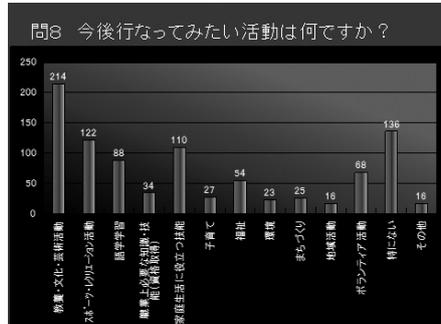
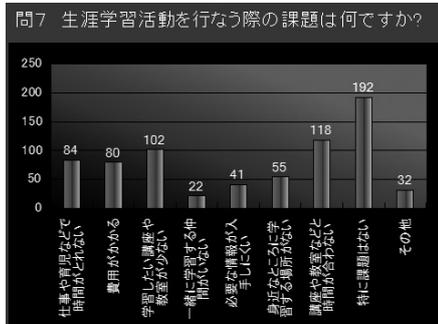
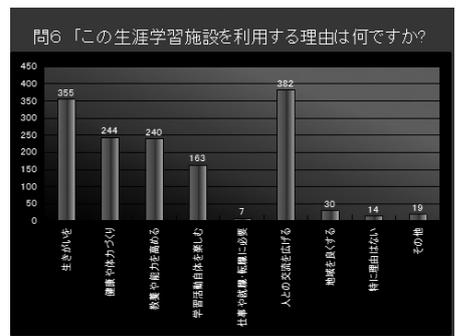
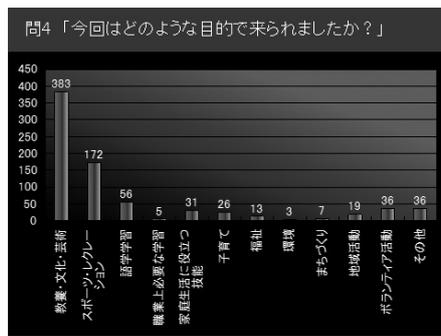
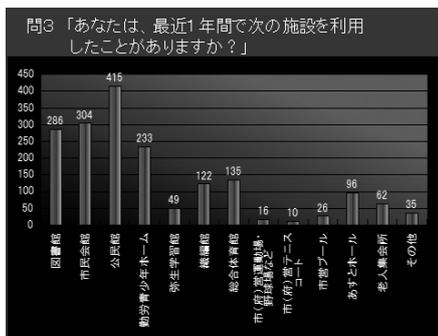
活動にあたっての課題は何かという設問に対しては、「特になし」が最も多く、これだけで判断することは困難でした。サークル、団体にとっての課題を書いた人も多い傾向がありました。活動資金の問題、メンバーが少ない、などが理由としては多かったです。次期リーダーの担い手がない、というのもありました。これは世代間参加人数とのギャップですね。今はなんとかなるが、次の世代につながる見込みがない。そのことを認識しつつも「課題は特になし」という、この点が問題ではないかと感じます。

今後行ってみたい活動については、これも「特になし」が多かったです。できれば、今やっているものを発展させた展望を持ってほしいと思います。自分が最終消費者であるという意識が見えてきます。

結論としては、少なくとも働いている人が生涯学習活動をするには無理がある、という現状がわかりました。その点を踏まえつつ、(1)「いつでも、誰でも、どこでも」学べる学習（環境）とはどのようなものか (2) すべての市民に開かれた生涯学習とは何か (3) 22世紀を目指す「持続的発展」とは何か、これらのことについて皆さんとフォーラムで話し合っていきたいと思っています。

## アンケート結果集計結果





### ◆学芸分野・スポーツ分野のアンケート結果報告

**丸山** 岡崎先生、ありがとうございました。続きまして、学芸分野の報告を井上先生に、スポーツ分野の報告を富山先生にお願いいたします。まずは、井上先生からお願いいたします。

**井上** 桃山学院大学の井上です。今回のアンケート調査では博物館部分を担当いたしました。泉大津市の博物館施設は織編館と池上曽根弥生学習館となりますが、両館の利用者分析をもとに、博物館活動のあり方についてお話ししたいと思います。

まずは、織編館からお話しいたします。織編館の利用者は60歳以上女性の方が大半です。利用目的としては、絵画展、手織体験が多くみられ、ボランティア活動という方もおられました。そのほか、おづみんセレクト市、桃山学院大学連携企画展、ハローワークセミナーに来られた方の入館もありました。利用頻度については、一週間に数回という方がいる反面、月1回程度の人もありました。

池上曽根弥生学習館については、利用者については織編館と対照的で、60歳以上男性が大半を占めました。利用目的は、教養・文化・芸術活動が大半でした。ボランティアで関わってる人も多くいました。凧づくり講座、ガラス細工講座、土器講座などで訪れる方もみられました。利用頻度は平均的に一ヶ月に1回程度でした。

このように一部の熱心な方がいらっしゃる一方で、明らかに入館者は少なく、このことが問題であることは間違いありません。特に若い人が少ないのが気になるところです。その点では私が勤めております、桃山学院大学でも学生と接していると思うのですが、地元への愛着、あるいは地元の歴史への興味の低さは非常に気になります。私の大学は地元志向の学生が多く、大阪や和歌山、奈良から通ってくる学生で大半を占めます。以前、泉大津市役所の会議室へ入った時に、街歩きや色々地域で活動されている方々が書かれたイラストマップが壁に貼られているのを拝見しました。地域でこれだけ熱心な取組みをされているのに、若い人たちにうまく伝えられていないような気がするのですが、その辺は気になります。

今年は戦後70年の節目の年ということで、桃山学院大学と泉大津市さんとの連携事業に戦争体験の聞き取り調査を行い、戦争を体験した世代の話を次の世代につなげていく取組みを考えています。体験したことのない戦争をいかに伝えていくか、それは、高齢者と若い世代の人とを、実際に接して会話してもらおう機会をつくるのが大事だろうと思います。その成果を博物館の活用につなげることができないかと考えています。

○博物館施設に関する質問項目

【問1】当館にはどのような理由で来館されましたか？（○をつけてください。複数回答可）

1. 展示を見るため
2. 館の体験活動に参加するため
3. それ以外の博物館の活動に参加するため。その場合、どのような活動ですか？

4. 目的はなかったが、興味をもったため
5. その他

【問2】当館の活動（展示や体験活動を含む）で面白かった点を挙げてください。

【問3】当館の活動（展示や体験活動を含む）で面白くなかった点を挙げてください。

【問4】当館のスタッフの対応は十分でしたか？（○をつけてください）

1. 良かった
2. まあ良かった
3. 普通
4. あまり良くなかった
5. 悪かった

【問5】上記の問4での当館のスタッフの対応について、どうしてその評価になったか、具体的にお書きください。

【問6】当館の改良すべき点を次の点から選んでください（○をつけてください。複数回答可）。

1. 交通アクセス
2. 展示内容
3. 体験活動
4. スタッフ
5. その他

6. なし

【問7】上記の改良すべき点についてどのようにすればよいか、お書きください。

【問8】上記以外で当館に対する要望がございましたら、お書きください。

以上でアンケート調査は終了です。ありがとうございました。

<織編館・池上曾根弥生学習館>

### 博物館施設に関する質問事項

動物園も博物館学では博物館の一つですが、動物園の世界では人は人生で動物園に3回行くといえます。1回目は子どもの時に親に連れられて、2回目は親になってから子どもを連れて、3回目は孫を連れて行く、という意味です。「人生で3回しか動物園に行かない」ということではありません。人生のさまざまなシーンで、何度も繰り返し訪れてみたい魅力ある博物館になるためにはどうすればいいのか。そこが「持続的発展」や「循環」の前提になるんだろうと思います。

**丸山** 次に、スポーツ分野について、富山先生よろしくお願いいたします。

**富山** 大阪体育大学の富山です。私の方からは、スポーツ施設利用者調査の結果と分析についてお話しさせていただきます。生涯学習というと、公民館での文化活動とか博物館での学習活動などが思い浮かぶかもしれませんが、体育館でスポーツをする、ジョギングやウォーキングをするということはとても重要な生涯学習であると考えています。そのような観点で今回は、泉大津市の市立総合体育館の利用者に対してアンケート調査を実施しました。総合体育館はバレーボールが3面、バスケットボールが2面、バドミントンが8面とれる大体育室をはじめ、柔剣道場など大変設備の充実した体育館であると思います。

サンプル数は男性41人、女性79人でした。年齢は70歳以上が最も多く36人、次に60歳代が31人で、高齢者の回答が多い状況でした。実施種目としては卓球、インディアカ、実年運動、体操・



アンケート結果報告の様子

ここからは、あなたの体育館のご利用についてお聞きします。  
【問9】 泉大津市総合体育館を利用するようになって、何年くらいですか

約( )年  
【問10】 一回の利用で何分くらい施設に滞在されますか  
一回あたり( )時間( )分程度

【問11】 あなたが泉大津市総合体育館で行っているスポーツ種目をお書き下さい

【問12】 総合体育館での活動に関わらず、あなたがこれから始めてみたいスポーツ種目はありますか。始めてみたいスポーツ種目をお書き下さい

【問13】 あなたが、運動やスポーツをする理由について、あてはまる項目全てに○をつけて下さい

1. 健康のため	2. 運動不足解消のため
3. 友人・仲間との交流のため	4. 体力保持・増進のため
5. 楽しいから	6. ストレス解消・気分転換のため
7. 趣味だから	8. ダイエット、体重維持のため
9. コミュニケーションのため	10. 娯楽、レクリエーションとして
11. 達成感を得るため	12. 記録や技術を高めるため
13. 競争を楽しむため	14. その他( )

【問14】 次にあげる項目について、あなたはどの程度あてはまりますか。各項目について、該当する番号一つに○をつけて下さい

項目	あてはまる 程度	5	4	3	2	1
教室やプログラムの内容・指導方法などが充実している	5	4	3	2	2	1
現在の開館時間は利用しやすい	5	4	3	3	2	1
どんなことでも気軽に問い合わせることができる	5	4	3	3	2	1
活動や行事などの情報が簡単に入手できる	5	4	3	3	2	1
スタッフは困った時にすぐに助けてくれる	5	4	3	3	2	1
利用者はルールやマナーを守っている	5	4	3	3	2	1
この施設の利用によって体調が良くなったと感じている	5	4	3	3	2	1
この施設の利用者との交流を楽しんでいる	5	4	3	3	2	1
施設は清潔でよく手入れされている	5	4	3	3	2	1
各部屋の入口やトイレ等の場所がわかりやすい	5	4	3	3	2	1
泉大津市総合体育館に思い入れがある	5	4	3	3	2	1
泉大津市総合体育館に対して愛着を持っている	5	4	3	3	2	1
泉大津市総合体育館とは別の施設で運動したいとは思わない	5	4	3	3	2	1
泉大津市総合体育館が好きである	5	4	3	3	2	1

【問15】 最後に今後の泉大津市のスポーツ振興のあり方についてご意見があればお書き下さい

以上でアンケート調査は終了です。ご協力ありがとうございました

### スポーツ施設(市立総合体育館)に関する質問事項

#### 施設概要

大体育室 (1,693㎡)  
バレーボール 3面  
バスケットボール 2面  
バドミントン 6面

第2体育室 (318㎡ 140畳)  
第3体育室 (341㎡)

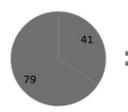
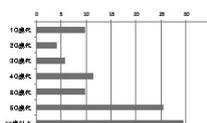
第1会議室、第2会議室  
第2体育室では、主に柔道  
第3体育室では、主に剣道



#### サンプル特性

性別	人数	%
男性	41	33.6
女性	79	64.8

年齢	人数	%
10歳代	12	9.8
20歳代	5	4.1
30歳代	7	5.7
40歳代	14	11.5
50歳代	12	9.8
60歳代	31	25.4
70歳以上	36	29.5

#### 実施種目

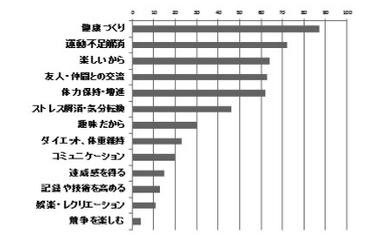
- 卓球
- インテアカ
- 実年運動
- 体操・健康体操
- ソフトテニス
- トレーニング



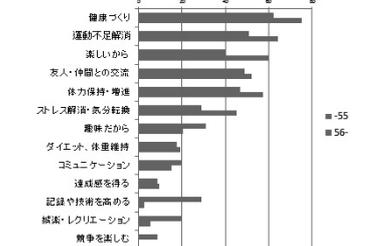
#### 運動の目的

項目	人数	%
健康づくり	87	71.3
運動不足解消	72	59.0
楽しいから	64	52.5
友人・仲間との交流	63	51.6
体力保持・増進	62	50.8
ストレス解消・気分転換	46	37.7
趣味だから	30	24.6
ダイエット、体重維持	23	18.9
コミュニケーション	20	16.4
達成感を得る	15	12.3
記録や技術を高める	13	10.7
娯楽・レクリエーション	11	9.0
競争を楽しむ	4	3.3

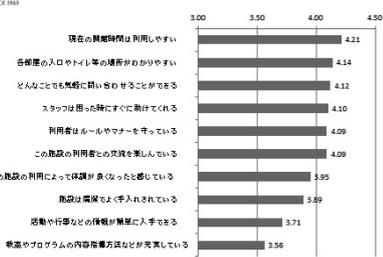
#### 運動の目的



#### 運動の目的年齢比較



#### 施設利用について

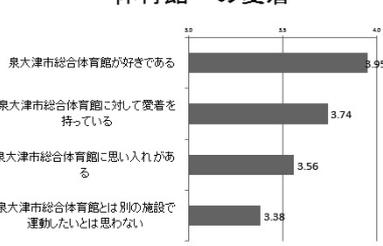


#### これから始めてみたいスポーツ

- バドミントン
- ヨガ
- 卓球
- テニス
- サッカー・フットサル



#### 体育館への愛着



### 総合体育館アンケート結果集計結果

健康体操、ソフトテニス、トレーニングがみられました。運動の目的では、「健康づくり」が最も多く 87 人にのぼりました。次いで「運動不足解消」72 人、「楽しいから」64 人、「友人・仲間との交流」63 人、「体力保持・増進」62 人、「ストレス解消・気分転換」46 人、「趣味だから」30 人、「ダイエット・体重維持」23 人と続きます。運動の目的を年齢で比較しますと、「健康づくり」「運動不足解消」「楽しいから」「体力保持・増進」「ストレス解消・気分転換」などで、56 歳以上の人と 55 歳以下の人とのパーセンテージを上回っている一方、「趣味だから」「記録や技術を高める」「娯楽・レクリエーション」「競争を楽しむ」では 55 歳以下の人と 56 歳以上の人を上回っています。施設利用については、開館時間、部屋やトイレの場所、問合せ、スタッフの対応、利用者のマナー、利用者との交流という点で 4 ポイント以上である一方で、体調の向上、設備の手入れ、情報入手、指導方法の充実という点においては 3 ポイント台にとどまっています。これから始めてみたいスポーツとしては、バドミントン、ヨガ、卓球、テニス、サッカー・フットサルがあがっています。体育館への愛着では、「好き」「愛着を持っている」「思い入れがある」がいずれも 3.5 ポイント以上であり、愛着の深さがうかがえる結果となっています。

これらのことを総括いたしますと、運動の目的は、第一に健康作りや運動不足の解消、そして楽しみや交流、体力の維持、ストレス解消、そしてダイエットやコミュニケーションということになります。達成感や記録向上はあまり多くありません。施設利用については、全体的に満足度は高いという結果でした。開館時間、スタッフの対応、仲間との交流については満足しているが、行事などの情報、教室などの内容に改善が必要との指摘もありました。体育館に対しては、愛着を持って活動をしている市民が多いような印象を持ちました。

スポーツは、個人が自分が楽しむだけでなく、多くの人と一緒に楽しめる環境をつくることで、公共性が高まり学びの輪が広がります。

**丸山** 岡崎先生、井上先生、富山先生ありがとうございました。3 名の先生方には、次のパネルディスカッションにもご登壇いただきます。これで第 1 部を終了いたします。

## ◆パネルディスカッション「“学び”を活かした地域コミュニティの再構築」

### ①泉大津市の現状

**丸山** ただ今より第 2 部「パネルディスカッション」に移らせていただきます。本日のパネラーをご紹介します。皆さまから向かって右側から、大阪体育大学教授で今年度から本市社会教育委員を務めていただいております富山浩三先生でございます。次に桃山学院大学准教授で同じく今年度から本市社会教育委員を務めていただいております井上敏先生でございます。次に社会教育委員会議長の車谷喜博様でございます。次に伊藤晴彦泉大津市長でございます。富田明德泉大津市教育長でございます。最後になりますが、コーディネーター役を先ほど基調講演を行っていただきました岡崎裕先生にお願いしたいと思います。岡崎先生には、先ほど、基調講演で各大学の先生から泉大津市の生涯学習について説明がございました。それらを踏まえ、泉大津市の印象や地域特性について伺いするとともにパネルディスカッションの進行をお願いしたいと思います。それでは、岡崎先生、パネラーの皆さま、よろしく願いいたします。

**岡崎** あらためまして、よろしく願いいたします。前半の基調講演をふまえて、進めていきたいと思えます。後半のテーマですが、泉大津を舞台に何ができるのかということで、課題は 2 つあると思えます。(1) 現在、泉大津がどこにいるのか、(2) 今後われわれはどこへ行くべきなのか、ということです。昨年、私が泉大津市の社会教育委員になりまして泉大津の印象を聞かれたことがあります。実は、私は昨日までノルウェーにおり

ました。そこで、レンタカーで高速道路を移動しておりますと、「○○コミュニティ」と書いた看板が道沿いにいくつも建っています。ノルウェーやスウェーデンでは「コミュニティ」という地域のまとまりがあるんです。「コミュニティ」とは日本語に訳すと「地域」となりますが、いわゆるコミュニティのことです。「コミュニティ」の中では「コミュニケーション」が大切です。「コミュニケーション」とは「話ができる」「顔がみえる」という意味です。泉大津は面積が狭いので、「顔がみえる」という特徴があります。これが泉大津の強みでもあります。後半のお話しはここから始めたいと思います。外部から見た私の印象をふまえて、まずは、市長さんに、泉大津市の強みについてお話しいただきたいと思います。

**伊藤** 泉大津市の強みですが、以前に比べ希薄化しているとはいえ、地域で人と人とのつながりがよく残っていることです。一方で、新しいものをなかなか受け入れない保守的なところがあります。市全体で言えることですが、隣の地域とは結びつきにくい、地域を点とすればそれが線や面という広がりになりにくいんです。先ほども申しましたが、泉大津市の高齢化率は23%と全国平均より低いです。一方で、出産適齢人口率が13.4%と、堺市から岬町まで9市4町中で一番高い、つまり若い世代もいるんです。この若い世代にどう出てきてもらうかが課題です。

**岡崎** 教育の立場から、教育長さんのご意見はいかがですか。

**富田** 本市では、南・北公民館を中心に、勤労青少年ホームも含めて、講座は充実していると思います。図書館、池上曾根弥生学習館、織編館でも市域の歴史に関する講座を行っています。また、生涯学習施設の講座から派生したクラブ活動も盛んです。その種類や数は多く、南公民館で48、北公民館で54、勤労青少年ホーム19、おてんのう会館8も行われております。ここが強みなので、生かしていければと思います。

**岡崎** 車谷さんは、社会教育委員会議長の立場からどうお考えですか。

**車谷** 泉大津市の現状についてお話しさせていただく前に、まずは、社会教育委員会議が今年度から新しく生まれ変わったという点について、皆さんに知っていただきたいと思います。私が社会教育委員になったのは、平成10年、もう10年以上も前のことです。その後、議長をさせていただくことになりました。平成25年、今の伊藤市長さんが市長になりました。私はそれまで市長さんの人となりをあまり知らなかったのですが、実は社会教育にとってもお詳しい、ということがわかりました。社会教育、生涯学習を良くしたい、という市長さんの熱い思いから、今年度から、社会教育委員に3大学の先生が新しいメンバーとして、加わりました。



パネルディスカッションの様子

それが、今日お越しの先生方なんです。そして、その流れを受けて今回初めてこのようなフォーラムが開催されました。本当に、市長さんの英断と3人の先生方のおかげであると思っております。

さて、泉大津市の現状についてですが、公民館にしても図書館にしても熱心な市民の方は、たくさんおられます。ただ、いろいろな場所で顔を合わせると、皆さん同じ顔ぶれが多いように思います。公民館、体育館、市民会館などの施設で行われていることを、できるだけ市民に知ってもらうにはどうしたらいいか、そこを検討していく必要があるのかなと思います。



井上准教授

**岡崎** ただいま、3人の方に泉大津の現状について語っていただきました。ご指摘にもあり、また、アンケート結果を見るかぎりにおいても、泉大津での社会教育活動は盛んだが、どうも偏りがあるように思います。特に若い世代の活動実態が見えてこないということです。現状についてある程度共通認識ができたところで、大学関係者の皆さんからもご意見をおうかがいしたいと思います。まずは井上先生からお願いいたします。

**井上** 博物館分野の担当として、地域の問題に博物館がどう関われるのか、ということについて、少しお話しをさせていただきます。

博物館学の視点から博物館の機能をいう場合、総じて「収集・保存」「調査・研究」「展示・教育」の3点があげられます。しかし、博物館学では違う視点があります。つまり、「神殿としての博物館」「フォーラムとしての博物館」という考え方です。神殿というのは、評価が定まった価値のある「至宝」があり、その至宝であるコレクションを人々が「拝観」する場所を例えています。人々はそこで未知なるものに出会い、それがきっかけとなって議論が始まる場所になります。つまり、「フォーラムとしてのミュージアム」という視点がそこに加わります。単に古い文化財を見て楽しむだけが博物館ではない。今、博物館学では、自立した市民がより良い地域にするための場が博物館である、といわれています。博物館に来て、未知なるものを見て、関心を持って議論をし、その輪が広がって循環する、それが魅力ある博物館の理想像ではないでしょうか。

では、それを泉大津市に置き換えた場合、どのような博物館活動が考えられるのでしょうか。泉大津市で今問題となっていること、それは、市長さんがごあいさつの中でおっしゃったように、少子高齢化だと思えます。一見、社会福祉の問題と博物館とはつながらないようですが、高齢化の問題は、これからの博物館のあり方の問題でもあります。私が役員をしております全日本博物館学会では昨年国際フォーラムを開催しました。その内容は「高齢社会における博物館と社会福祉」という題名で、イギリスや台湾での博物館の取り組みについて紹介され、高齢社会において博物館がどのような貢献ができるかといったテーマでした。それを聞いていて思ったのですが、博物館における展示で地域の誰もが関心のある、この泉大津市という地域における社会福祉に関する問題点を取り上げ、現状、そして未来がどうなっていくのかという展示をし、それに関連する講演でも、討論会でもやってみてはどうかと思っているのですが、いかがでしょうか。高齢化社会に突入している現在、それを地域でどう認識し、どうしていくべきか、その議論の場が博物館であっても良いと、私は考えております。そういうことを泉大津市の博物館でできないでしょうか。織編館・学習館とも高齢者のボランティアさんが多く来られています。その方々が見学に来る若い皆さんに知恵を伝えていく。その循環がリピーターを増やし、実のある博物館活動が促進できるのではないのでしょうか。

**岡崎** 博物館の社会性というのでしょうか、そのような博物館のあり方に注目されたお話しでした。次にスポーツ分野について、富山先生のご意見をお願いいたします。

**富山** 私の方からはスポーツの視点から、地域における問題と、そのかわり方について、お話しさせていただきます。

今年度、泉大津サッカー連盟の皆さんにヒヤリングをさせていただきまして、併せて大阪府内の教育委員会を対象に、もっとも身近な施設としての学校体育施設の開放状況について調査を行いました。また、大学のゼミでも泉大津におけるスポーツの実態について学生たちと調べてみました。

スポーツ少年団の数でいえば、サッカーで3団体を始め野球や少林寺拳法などが多数あります。また、他市にひけをとらないほど立派な総合体育館という施設もお持ちです。ところが、それぞれが点で活動しており、面になっていない。どうやってそれを面にするのが課題です。

サッカーをする子どもの数は増えています。サッカー団体の人に課題を聞くと、土ではなく芝生のグラウンドで練習したい、小学生だけではなく年配の人も利用できる施設をつくっていききたい、などの話がありました。文部科学省は「総合型地域スポーツクラブ」という、地域におけるスポーツクラブの新しいあり方を提唱しています。総合型地域スポーツクラブの設立は、これらの問題に対する解決策を提案できます。総合型地域スポーツクラブとは、多種目、多世代、多志向をキーワードに、国が設立を推進している地域スポーツクラブの新しい形です。昨年、スポーツ基本法が施行し、基本法に基づいてスポーツ基本計画が策定されました。その中でも、総合型地域スポーツクラブを積極的に推進することによって、地域の諸問題の解決をめざすことが示されています。

大阪府内では、学校開放事業の運営を総合型クラブに委託し、総合型クラブが開放施設を使って事業展開をしている事例があります。総合体育館調査の結果でも、プログラムに対する満足度得点が低い傾向がありましたが、このような仕組みを導入することで、多彩なプログラムを導入することが可能で、教育委員会の開放業務に対する負担を軽減することが可能です。大阪府内では56クラブが活動しています。しかし、残念ながら今の泉大津市にはそのようなクラブがまだありません。そのようなクラブづくりが、泉大津市が今後めざしていく一つの方向性ではないでしょうか。総合型地域スポーツクラブでは、世代間交流による伝達や学びの輪が生まれ、そこに福祉や社会教育を取り入れることができるからです。地域の小学校や中学校など、身近な施設で活動できれば、勤労世代の方々も参加しやすくなりますし、クラブの運営には退職世代の方々のマンパワーを生かしていくことでの生きがいがづくりにつなげることも可能です。

私は、単なる「地域スポーツクラブ」ではなく「総合型地域スポーツクラブ」への転換が、スポーツ分野が担う生涯学習の新しいあり方ではないかと思いついています。

## ②今後の目指すべき姿

**岡崎** ありがとうございます。このフォーラムの開始前、泉大津市はセーフコミュニティを目標にしているとうかがいましたが、生涯学習では、安全に、かつ全ての人に関わるというのが大前提だと、「総合型地域スポーツクラブ」のお話しを聞いて改めて思いました。井上先生、富山先生のお話しを受けまして、市長さん、これからの生涯学習の方向性についてコメントはありますか。



富山教授

**伊藤** 私が市長になって丸 2 年がたちました。まちを良くしたいという思いで、「コミュニティの再構築」ということを政策目標に掲げてきました。私自身は、社会教育主事として、13 年間公民館で生涯学習に携わってきた経験があります。昔の社会教育といえば団体を作れ、と言われてやってきたこともありました。

泉大津市には公民館が 2 つあり、体育館もあるということで施設は充実しています。ただ、ここ 15 年ほどは財政再建の影響で、生涯学習に力を入れることを怠ってきた現状があるといえます。このままではいけません。いつの時代も変化と創造がありますが、今の時代はその振幅が一番大きい時代だと思います。そこをどう乗り越え、良いものを作り、次代につなげるのかが必要です。

現在、公民館ではたくさんの活動が行われていますが、活動している皆さんと話をすると、活動内容自体は料理クラブでも何でも良く、ただ友だちを作って楽しみたい、という人が多いと思います。頑張っただけ料理をつくってきたのなら、一冊のレシピ本にまとめて地域や近所に配ったり、発表会などをしてもいいと思うんです。つまり、「集まり」「学ぶ」「結ぶ」はあるのですが、「届ける」という発信の行為が少ないことがはなはだ残念なのです。自己充足だけでいいのでしょうか。それに加えて、まちのために「届ける」ことも大切だと思うのです。カルチャーというのは「耕す」という意味ですが、自分の心を耕して、いい人間関係が築けたなら、次の人にどう「届ける」のか、市民の皆さんにもそのような視点を持っていただきたいのです。泉大津のまちも変わってきています。コミュニティを再構築するために、本日参加された皆さんが、生涯学習の発展に積極的に関わる市民になっていただきたいと思っています。

**岡崎** コミュニティの再構築のためには市民一人ひとり生涯学習活動に関わるべきという、生涯学習の進むべき一つの方向性についてお話しいただきました。教育長はいかがですか。

**富田** お二方の先生のお話しは大変新鮮でした。博物館で社会福祉をする、総合型地域スポーツクラブへの転換を図る、いずれも「高齢化」という問題解決の糸口を見出す思いがいたします。学校教育の現場においても、登下校の見守り等でさまざまなボランティアの方が関わっていただいておりますが、やはり高齢化が問題になっています。働く世代がなかなか来れないという現状がありつつ、それを嘆いていても前に進んでいかない。働く世代にどう関わっていただくか、という問題でもあります。例えば本市の 3 中学校のクラブ活動では、先生方が顧問になって活動していることが多いのですが、特殊技能が必要なクラブについては外部の指導者に入っている場合もあります。しかし、働く世代は仕事を持っていて、そのようなボランティアとして関わる時間が取りにくい人もいます。そういった人を掘り起こせたら次の展開が開けるのに、と思うことがあります。



富田教育長



伊藤市長



車谷議長

**岡崎** 今回のアンケートはいろんな意味でインパクトがありました。高齢化の問題もそうです。学校教育の位置づけが生涯学習の出発点であることを改めて思いました。車谷さんはいかがでしょう。

**車谷** 昔は、地域の活動に各世代がまんべんなく参加していましたが、今は家族単位で動いていることが多いように思います。自治会に入らない人も多いと聞いています。私は子ども会でソフトボールやキックベースの役員もしましたが、習い事をする子どもが多くなったりして、次第に入っただけでなくなったことを覚えています。解散したクラブもたくさんあります。

**岡崎** 世代、人々をつなぐ循環、輪が共通認識になってきたと思います。そこで、次の 2 つ目の課題、「今後我々はどこへ行くべきなのか」に移りたいと思います。今後のことについて、まずは市長さんに、考えておられることがあればお願いいたします。

**伊藤** 本市では昨年 6 月 5 日に、安全・安心のまちづくりを推進するため、国際認証制度である「セーフコミュニティ」活動を開始することを宣言しました。その核はいうまでもなく地域のコミュニティです。認証の基準は高いですが、そこへたどり着くように、市民やボランティアの方と取り組んでいるところです。取り組みを開始してから変わってきた点は、企業の人々が「まちづくりは必要である」と目を向けていただけになった点です。この取り組みが更に活発になるように、生涯学習施設の中で討論を活発にしてほしいと思います。

クラブ活動も長くやっていると閉鎖的になって、新しい人が入りにくくなったりします。例えば小さいお子さんを預けるのに先輩お母さんと助け合ったりすれば、相互作用が生まれて若い世代の参加にもつながり、クラブ活動も活性化することがあると思います。そんな交流があっても良いですね。また、公民館の利用日時が重なったときはお互い真剣な話し合いをして、その中から交流が生まれても良い。話し合うことこそが、生涯学習だと思います。

**岡崎** 教育長はいかがですか。

**富田** 先程の話の続きになりますが、働く世代を取り込めないか、と考えています。そのためには、PTA という組織が大切だと思います。交流のスタートが PTA で、そこから仲良くなって活動をしている人もたくさんいます。さらに本市の特徴としては、すこやかネット（地域教育協議会）などが充実しています。すこやかネットでは地域のリーダーの皆さんが、イベントや子どもの見守りなどさまざまな取り組みをしています。今後も先細りにならないよう大事にしたい活動ですし、そういった中から次につながる人材を発掘できればと考えています。

**岡崎** 市長さんもいわれたように、より開かれた活動をするうえで、意味のあるお話しだと思います。車谷さんはいかがですか。

**車谷** 学校も、地域も、社会問題に関心を持つことは必要です。あまり取り上げられないことのない地域の社会問題を、取り上げることができるシステムづくりが、生涯学習を進めるうえで大切はないか、と最近考えています。



会場の様子

**岡崎** いかにして社会教育という機会を通じて社会とつながるのか、そのことについてさまざまな議論が交わされました。ただし、今日のフォーラムはまだスタート地点にすぎません。3大学の教員も今年度社会教育委員に就任したばかりですし、今回のアンケートも本来はすべての市民に対するものであるべきところ、施設利用者に限定したものでした。今日の議論は、ぜひとも今後につなげていきたいと思います。

私も一言発言させていただきたいと思います。私は、今後の生涯学習には、社会性が重要だと考えています。さきほど井上先生が、「戦争を次世代にどう伝えるか」ということをおっしゃった。私たちの世代は戦争を知りません。それを実際に知っているのは高齢者です。アンケート調査の結果が高齢者に偏っていることは、戦争を語れる高齢者が生涯学習活動に熱心である証拠ですし、それはある意味、次につなげていく上で非常に強みにもなります。若い人が学ぶことができる重要なテーマについて、それを伝えることができるのは、公民館を使っている方しかいないんです。ぜひ、次の世代も含めて、その知恵を、時代を越えて伝えていただきたいと思います。

今回の出発を契機に、今後も生涯学習のありようについて考えていきたいと思います。皆さん、最後に一言ずつお願いいたします。

**富山** 泉大津にはだんじりの文化があります。どういうことかと言いますと、年長者が若い人に教える、という文化が根付いているということです。スポーツというのは、いろんな世界の人が同じユニフォームを着て一緒にやることで、連帯感が生まれます。大人も子どもも同じユニフォームや同じマークをつけたウェアを着て夕方歩いていると、大人が子どもを見かけても「スポーツをした帰りなんだな」と認識することができます。そのことが子どもの見守り、地域の連携につながり、泉大津市がめざしている WHO の提唱するセーフコミュニティの理念にも合致するものと思います。つまり、スポーツは、まちづくりのツールとして大きな可能性があると言えるのです。その可能性をどう生かすかが重要になると思います。

**井上** 私ごとですが、昨日恩師の定年記念の会に出席したのですが、恩師が孫を連れてきて「私が仕事をしていたころは、自分と子どもの世代のことだけを考えていたら良いと思っていたが、孫が喜寿になると 22 世紀になることを考えると、心配で心配で眠れなくなってしまった」というようなことをおっしゃいました。22 世紀は遠い未来のことではないんです。今行動しなければいけない、その行動を起こすのはこの場からだと思います。

**車谷** 最近、改めて「広報いずみおおつ」は良くできてるなと思います。市長さんも随分目を通しておられます。この紙面には泉大津の情報が満載されているので、皆さんよく読んでほしいと思います。

**富田** 私は図書館をより良いものにしていきたいと思っています。今年度から戎小学校の図書館を地域開放しています。その運営は地域の皆さんが献身的に担っていただいています。そんな、市民の皆さんが積極的に関わる場がコミュニティの核になって、さらに広げていければいいなと思っています。

生涯学習フォーラム

## 生まれる×学び＝生涯学習

地域と二人三脚で成長する“まなびの循環”

地域でまなび      地域でおしえる

教育委員会と連携している3大学による、生涯学習課の各分野における課題分析やアンケート・インタビューの結果を踏まえ、地域における“まなび”のあり方を市民と共に考えるフォーラムを開催します。

**日 時** 3月1日(日) 午後2時30分～4時30分

**場 所** テクスピア大阪 小ホール

定員 当日先着 100 人 (入場整理券配布 午後2時～)  
 一時保育あり 対象は6か月～未就学児で先着10人  
 2月13日(金)までに生涯学習課(市役所3階)へ申込み

**内容**

- 基調講演「これからの生涯学習」  
岡崎 裕氏(フル学院大学教授・社会教育委員)
- パネルディスカッション「“まなび”を活かした地域コミュニティの再構築」  
コーディネーター・岡崎 裕氏

パネラー

- ・富山 浩三氏(大阪体育大学教授・社会教育委員)
- ・井上 敏氏(桃山学院大学教授・社会教育委員)
- ・車谷 善博氏(社会教育委員会議長)
- ・伊藤 晴彦(泉大津市長)
- ・富田 明徳(泉大津市教育長)

お問合せ先 生涯学習課(市役所3階) 0725-33-1131(代表)

生涯学習フォーラム広報用ちらし

**伊藤** 泉大津のまちも市民の方も、随分変わってきました。先ほど富山先生からだんじりの話がでしたが、上之町の若頭会や青年団の方 143 人が、認知症サポーター講習を受講して下さって、地域で活動して下さっています。これまで認知症サポーター講習を受講した人は 2,250 人おられます。先日は中学生 320 人も受講してくれました。このように、市民の方々が積極的に関わるようになってきています。行政の方でも、去年はテクスピア大阪の 5 階に市民活動支援センターを開設し、支援体制を整えました。こういった動きは、これまで泉大津市の文化を後押ししてこられた文化協会さんの中からも出てきております。

昨年、リトアニアにまいりましたときのことですが、朝、ホテルを出て道路を渡ろうとしたときに、信号もないのに車の方が配慮して止まって、人を横断させてくれるんです。よく考えてみると、そこには、信号機という機械に頼った生活するのか、市民がルールを守って人間中心に生活するのかという、主体性の問題が含まれています。この国ではどこも芝生がよく手入れされていて、とてもきれいでした。人が暮らしやすいまちづくりを市民が主体性をもって創り守っているという印象を受けました。

井上先生から戦後 70 年というお話もありました。第二次世界大戦時のリトアニアには、杉原千畝という日本の外交官がいて、ナチス・ドイツの迫害によりポーランド等欧州各地から逃れてきた 6,000 人の難民にビザを発給し生命を救った人物として知られています。戦時中にこういう日本人がいたこと、行って来たことを伝えていくのも大切なことだと思います。

市民同士の交流を図りながら、行政も取組みを前に進めていく、そのことが必要です。市民の皆さんには、ぜひ一緒にまちを良くする主体者としての「市民」になって欲しいし、また、それが一番の方法ではないかと思えます。笑顔を通わせるまちづくりを進めていきたい。だから、今日はこのフォーラムにたくさんの方が参加していただいて大変うれしく思いますし、今後、泉大津が必ず良いまちになっていくことを確信いたしました。

**岡崎** 今日のフォーラムでは多くの知恵が出され、本当に良いキックオフになったと思います。生涯学習とは自分が学ぶだけでなく、学びあう、そのことが大切です。これからの生涯学習をより良いものに発展させるために、これから一歩でも二歩でも前に進めていきたいと思えます。本日は、どうもありがとうございました。

**丸山** 岡崎先生並びにパネラーの皆さま、長時間にわたり、ありがとうございました。

#### ◆参加者の声～参加者アンケートより～

フォーラムの終了後、より充実した生涯学習を進めていくために、参加者にアンケート調査を実施いたしました。その一部を掲載いたします。

- ・学校に地域のこともっと知ってもらうことが大事だと思った。自分自身ももっと多くの活動をしていきたい。生涯学習フォーラムが第 2 回と継続できたら良いなと思った。(20 代・男性)
- ・アンケートの説明はプリント配布でわかることで、先生ご自身の考え等の時間が少なかった。井上先生の話が心に残りました。(60 代・女性)
- ・3 名の先生方の各分野のお話は非常に興味深く、泉大津に対して少々誇りを持っていけるかなと。多くの文化財や活動はアピール不足に感じています。口コミで広げていけたらと思いました。(60 代・女性)
- ・年配者だけが生涯学習をしたいのではないので、もう少し子育て世代に重きを置いてもらいたい。子どもを預けられる体験学習や講習会は非常にありがたく、増やしてほしい。(40 代・女性)

- ・なぜ自治会に入らないか、生活の余裕がない中でなぜ塾や習い事に行かせるのかという子育て世代の現状を行政に考えてもらいたい。(40代・女性)
- ・市長の料理レシピの話は納得。英会話等を学んでおられる方はその知識をコミュニティにもっと生かす方法を考えてほしい。つながりあう仕掛け作りが大切。(60代・女性)
- ・施設の利用方法がわからない。土日や夜間の利用は可能なのか、情報が少ない。フルタイムの仕事をもっている関わっていくことが困難。生涯学習に興味はあるので今後は活動に参加したいと思っている。(40代・女性)
- ・素晴らしいキックオフになったと思います。素晴らしいゴールにつながるよう、市民みんなでがんばっていただけらと思います。(40代・男性)
- ・興味のある話題でしたので有意義なお話を聞かせていただきありがとうございました。今後の活動に意欲が増してきました。(60代・女性)
- ・やりたいことや見たいことはたくさんあるが毎日仕事や家族の世事に追われている。でもいつまでもこのままではなく活動へ参加していきたい。リトアニアの話もよかった。(50代・女性)
- ・もっとスポーツに対して何か行うべきと感じた。(20代・女性)
- ・学生としてできることを協力していきたい。(20代・男性)
- ・ディスカッションはもう30分長い方がよかったのでは。(50代・男性)
- ・生涯学習関係のクラブが100を超えると聞いた。こうした活動を通じて多くの市民が生活の充実感が感じられるよう行政は大いに支援しなければならないと思った。また、さらには活動をつなげ広げ、公益的な性格をもてるよう方向づける役割(いわゆるまちづくり)も行政が担うよう求められているのではないかと。(30代・男性)
- ・若い世代がなかなか参加しない、リーダーが育ってこないと危惧している。自分が楽しんで活動するだけでなく、「次世代につなぐ」を意識して活動していきたい。(60代・男性)
- ・生涯学習活動をしていないので「まなびの循環」について理解を深めることはできたと思う。しかし実際に生涯学習活動にどのように参加していくのかは今でも「？」である。でもおもしろかった。(50代・男性)
- ・生涯学習に限らず、学び教える循環が自分の成長のみならず地域にも(社会にも)重要になるということがよくわかったように思い、今の自分の活動を進めていこうと思う。(60代・女性)
- ・次世代に伝えていく難しさを感じています。地域でのコミュニケーションを取れる場所をもっと増やすべきだと感じました。(50代・女性)
- ・話はわかりませんが大きすぎて…具体的にこんなことをしようといういろいろ考えてほしいです。(60代・女性)
- ・循環が必要なのは生涯学習に限ったことではないので違和感を持った。人間の活動すべてが循環ではないのか? 学生の文化財保護の意識が低いとあったが、60~70代の方も10代20代のときから意識が高かったのかはなはだ疑問である。フォーラムを聞いて生涯学習の定義が広がり過ぎのように思った。(40代・男性)
- ・50代以上の利用、男性より女性が多い等は当然のことと考えるが、アンケート結果にもあったように利用者が限られている、偏りがある、後継者の問題等、次世代への継承や若い年齢層への広がり等循環が大きな課題だと感じる。簡単には進まないと思うが、必要なことであるとする。(60代・女性)
- ・IT、ネット社会と社会教育の関係(問題点と改善策)等をフォーラムで行ってほしい。(60代・男性)
- ・初めての参加ですがよかったと思います。このような機会が今まであまりなかったように思いますので、今後機会があればできる限り参加したいと思います。(70歳以上・女性)
- ・循環型生涯学習というのはいい言葉だ。(50代・男性)
- ・世代を超えた活動が必要だと感じました。(20代・男性)
- ・これからも次々とこのようなフォーラムに参加したい。もっと早い時間から始めてほしい。(60代・女性)

## 事業報告

# 生涯学習施設連携事業報告

プール学院大学 × 生涯学習施設

平成 26 年度におけるプール学院大学・泉大津市教育委員会の連携事業は、公民館を中心とした生涯学習施設の活性化と、施設を利用する各クラブの持つ豊富な知識や経験を地域に還元し、循環することを目的として実施した。事業を開始するにあたっては、連携事業の担当者であるプール学院大学の岡崎裕教授が、南・北公民館や図書館、勤労青少年ホームで各館長やクラブ関係者へのインタビューを行い、現状と問題点を抽出することで、今後の展開を実施するための参考とした。

地域還元の具体的取組みとして、本年度は下記の講座を開催した。プール学院大学から講師を招き、大学が持つ知的資源を活用することで、生涯学習事業を推進することができた。

### <開催講座実績>

#### ①「賢い消費者市民になるために～消費者教育サポーター講座～」

講師：岡崎裕（プール学院大学教授）

平成 27 年 2 月 6 日、2 月 13 日（北公民館）参加者のべ 24 人

平成 27 年 2 月 7 日、2 月 14 日（南公民館）参加者のべ 25 人

概要：インターネット利用の注意点や悪徳商法への対応などを学び、自立した消費者になることをめざした。

#### ②「エンジョイ！そと遊び！～こどもにとって「遊び」とは何か～」

講師：川口裕之（プール学院大学非常勤講師）

平成 27 年 2 月 12 日（南公民館）参加者 9 人

平成 27 年 2 月 19 日（北公民館）参加者 10 人

概要：子どもが自ら工夫して、屋外で自然と親しむことの重要性を、ゲームなどを通して学んだ。

#### ③「興味を持って描いてみよう！～絵を描くはじめについて～」

講師：上田慎二（プール学院大学准教授）

平成 27 年 3 月 11 日（南公民館）参加者 16 人

平成 27 年 3 月 12 日（北公民館）参加者 17 人

概要：絵を描くことの楽しさを思い起こし、苦手意識を越えて、自由に描くことの喜びを再認識した。

泉大津市教育委員会主催（プール学院大学連携講座）

# 賢い消費者市民になるために

～消費者教育サポーター講座～

（全2回）

南・北公民館両方で開催！ 本格的な内容を身近で体験！

被害にあわない消費者、合理的意思決定ができる自立した消費者にとどまらず、より良い市場と社会の発展のために積極的に関与する消費者を育成する「消費者市民社会の形成に寄与する消費者を育むための消費者教育」を体験して、ワンランク上の消費者を目指してみませんか？

開催日 北公民館：2/6（金）・2/13（金）  
南公民館：2/7（土）・2/14（土）  
時間 午前10時～正午  
講師 岡崎 裕氏（プール学院大学教授）



受講料 無料 定員 各30人  
場所 南公民館：3階第1・第2研修室 北公民館：2階大会議室  
申込 受講を希望される公民館の窓口または電話にてお申込みください（原則2回連続受講可能な方）  
南公民館：電話（33-1764）  
北公民館：電話（23-0505）  
※一時保育あります 6か月～未就学児対象、各先着10名まで  
申込時に同時申請（締切は北公民館1/30（金）、南公民館1/31（土））  
問い合わせ先 生涯学習課（市役所3階） 電話（33-1131）



泉大津市教育委員会主催（プール学院大学連携講座）

# エンジョイ！そと遊び！

～こどもにとって「遊び」とは何か～

（全1回）

南・北公民館両方で開催！ 本格的な内容を身近で体験！

そと遊びはこどもの成長に欠かせない貴重な体験です。なぜ今そと遊びが必要なのか、身近でどのような遊びができるか、一緒に学習しながらそと遊びについて考えてみましょう。

開催日 南公民館：2/12（木）  
北公民館：2/19（木）  
時間 午前10時～正午  
講師 川口 裕之氏  
（プール学院大学非常勤講師、NPO法人Kid'sほけっと）



受講料 無料 定員 各30人  
場所 南公民館：3階第1・第2研修室 北公民館：2階大会議室  
申込 受講を希望される公民館の窓口または電話にてお申込みください  
南公民館：電話（33-1764）  
北公民館：電話（23-0505）  
※一時保育あります 6か月～未就学児対象、各先着10名まで  
申込時に同時申請（締切は南公民館2/5（木）、北公民館2/12（木））  
問い合わせ先 生涯学習課（市役所3階） 電話（33-1131）



泉大津市教育委員会主催（プール学院大学連携講座）

# 興味を持って描いてみよう！

～絵を描くはじめについて～

（全1回）

南・北公民館両方で開催！ 本格的な内容を身近で体験！

絵を描くのが苦手という方がいます。本来絵を描くことは自分が感じた思いを自由に表現することであるのに、周りを意識するあまり自信をなくしている様子が見受けられます。

今回、「絵を描くはじめの気持ち」を考えてみることで、絵を描くことの本来の意味…思いを広げること、楽しむことを再認識し、表現することへの興味をもう一度見つめていくことで、描くことへの自己とのつながりを考えてみませんか？ ※講義と実技を行います

開催日 南公民館：3/11（水）  
北公民館：3/12（木）  
時間 午前10時～正午  
持ち物 描画材（ボールペン、スケッチペン、4B鉛筆、色鉛筆など）  
スケッチブックまたは八つ切り画用紙  
講師 上田 慎二氏（プール学院大学准教授）



受講料 無料 定員 各30人  
場所 南公民館：3階第1・第2研修室 北公民館：2階大会議室  
申込 受講を希望される公民館の窓口または電話にてお申込みください  
南公民館：電話（33-1764）  
北公民館：電話（23-0505）  
※一時保育あります 6か月～未就学児対象、各先着10名まで  
申込時に同時申請（一時保育締切は南公民館3/4（水）、北公民館3/5（木）ですが、参加の申込は各開催日前日まで可能です）  
問い合わせ先 生涯学習課（市役所3階） 電話（33-1131）



「賢い消費者市民になるために」



「エンジョイ！そと遊び！」



「興味を持って描いてみよう！」

泉大津市連携講座 2015.3.11南公民館 3.12北公民館

興味を持って描いてみよう！ ～絵を描くはじめについて～ (全1回)

ブール学院大学 教育学科 上田慎二

はじめに  
 絵を描くのが苦手という方がいます。本来絵を描くことは自分が感じた思いを自由に表現することであるのに、周りを意識するあまり自信をなくしている様子が見受けられます。今回、「絵を描くはじめの気持ち」を考えてみることで、絵を描くことの本来の意味…思いを広げること、楽しむことを再認識し、表現することへの興味をもう一度見つけていくことで、描くことへの自己とのつながりを考えてみましょう。

1. 絵を描くことと表現すること  
 大学生に尋ねるとほとんどの学生が図工は好きであるが「絵を描くのは苦手」と答える学生が多数見られた。学生は美術（図工）の授業が嫌いという訳ではなく、うまくできたかどうかの価値観の中で評価されてきたということが絵を描くことへの苦手意識の原因の一つと思われる。美術教育現場においては「かく、つくる」楽しさを体験し、自ら表現する喜びを経験しなければ、幼児や児童の表現する造形活動を理解することはできない。美術教育において「表現することとは何か」を考えると見方や考え方・感じ方を深めていくこととなる。五感を通して関わるのが重要になると考える。

○描くこととは何

①. よく耳にする言葉 「絵を描くのが苦手」「へただから」他

②. 知識、体験 「固定観念」

○表現とは

③. 五感で感じる 視覚 聴覚 触覚 嗅覚 味覚

④. 描く意味 自己表出するー感じた事 思った事 感情

・表現すること 気持ちが良い、わるい、しんどい、つかれる 伝えたい 残したい、(楽しい、興奮)

○苦手原因 理由 不安感、評価、他者への意識、恥ずかしさ

⑤. 幼児にとって描くことは遊びである。  
 探索、観察、変化、感触、興味

○描く楽しさとは (演習)

「形を描かない」  
 ・線遊ぶー自由に線を走らせる  
 線の感触を楽しむ。リズム、連続性、感触

「色の発色」  
 ・色を楽しむー色の変化を感じる。パスの発色性  
 色鉛筆の発色

意識 見て描く = 観察する  
 思いを描く = 想像する

無意識 気持ちよさ = 感覚 リズム  
 秩序ー無秩序 = 連続性 感触 感覚

・得られるもの 安心感 色がきれい 強い 鮮やか 達成感

「興味を持って描いてみよう！」レジュメ

## 地域における生涯学習施設の活性化と大学連携

岡崎 裕（プール学院大学教授、泉大津市社会教育委員）

本来、大学にとっての本質的機能とは、学生を指導し次世代を担う人間を育てる「教育」的機能、社会の中で科学の先端を担う「研究」機関としての機能、そして近年この二つに劣らず重要な機能として位置づけられているものが、前記の機能を生かしながらその成果を地域社会へ還元してゆく機能、すなわち「地域貢献」である。今年度 2014 年よりプール学院大学は、泉大津市との包括連携協定に基づき、市内の生涯学習施設の活性化に向けた総合的連携プログラムを開始した。その主たる対象となる生涯学習施設とは、図書館、公民館、体育館、博物館等であり、今後私たちは、3 年にわたって効果的なあり方を検証しながら、その活性化に向けた協働事業を進める。今回プール学院大学は、公民館、図書館、そして勤労青少年ホームの活性化を担当する。生涯学習は、本来、人間の一生涯を見通した、すべての人々のための教育機会であり、その意味では、学校などもその一部として位置づけられる。地域社会の人々の生涯にわたる「学び」を見据えつつ、地域における「知」の拠点として「教育学」の立場から貢献を進めたい。



市立南公民館



市立北公民館



プール学院大学

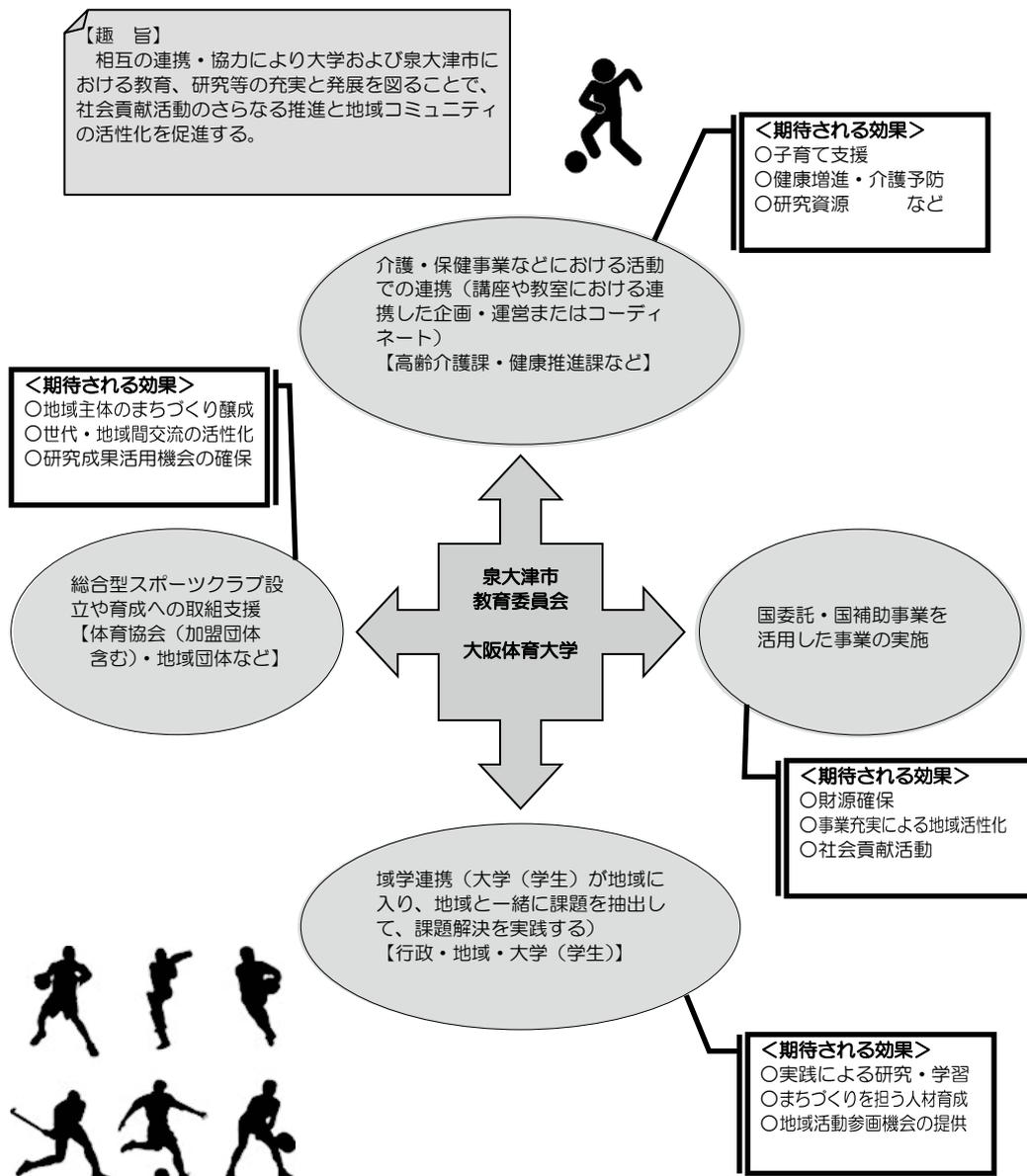
# 事業報告

## スポーツ推進事業実施報告 ～スポーツを通じた地域活性化～

大阪体育大学 × 総合体育館 × 留守家庭児童会

### スポーツ振興における連携事業（イメージ）

【大阪体育大学・泉大津市教育委員会】



# 事業紹介



## 【スポーツ教室（健康体操 A）】

20歳以上の女性を対象にした教室

### 事業連携の目的

大阪体育大学の知見を活かした新たな教室プログラムの導入により、内容充実を図り、受講者の満足度を高める。また、スポーツ教室の指導により、実践による学習の機会提供が可能。



試行的にラグビーの要素をプログラムに導入

## 【留守家庭児童会（仲よし学級）】

放課後子育て支援事業—子どもの居場所づくり—

### 事業連携の目的

大学が確保した人的資源を活用して、当該人材が「体育遊び」の企画運営を行う。「体育遊び」の導入により、児童の体力向上や豊かな心を育む。また、児童への指導や企画立案作業を通して、人材育成に寄与し、地域活動の場を提供できる。



プログラムに「体育遊び」を新規導入

## 《 スポーツ教室（健康体操 A） 実施概要 》

日 程	回数(年)	定 員	内 容
平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月 (木曜日)	26 回	50 人 (20 歳以上の女性)	バドミントンや ニュースポーツ

## 《 留守家庭児童会（仲よし学級）体育遊び 実施概要 》

日 程	場 所	参加人数	内 容
平成 26 年 8 月 21 日	条南小学校	51 人	ラグビー 他
平成 26 年 8 月 26 日	上條小学校	55 人	ラグビー 他
平成 26 年 8 月 27 日	浜 小学校	32 人	ラグビー 他
平成 26 年 8 月 28 日	穴師小学校	34 人	ラグビー 他
平成 26 年 12 月 17 日	旭 小学校	60 人	妖怪ウォッチ体操 他
平成 26 年 12 月 25 日	穴師小学校	28 人	妖怪ウォッチ体操 他
平成 27 年 1 月 28 日	浜 小学校	22 人	妖怪ウォッチ体操 他
平成 27 年 2 月 4 日	戎 小学校	26 人	妖怪ウォッチ体操 他
平成 27 年 2 月 18 日	上條小学校	50 人	妖怪ウォッチ体操 他
平成 27 年 2 月 25 日	条東小学校	30 人	妖怪ウォッチ体操 他
平成 27 年 3 月 25 日	条東小学校	33 人	ラグビー 他
平成 27 年 3 月 25 日	旭 小学校	57 人	ラグビー 他
平成 27 年 3 月 26 日	条南小学校	57 人	ラグビー 他
平成 27 年 3 月 27 日	戎 小学校	27 人	ラグビー 他

### スポーツ連携事業活動報告

大阪体育大学卒業生 川添 勝紀

平成 26 年度の約 1 年を通して泉大津市教育委員会と大阪体育大学との連携事業に携わり、本当に多くのことを学びました。特に、体育館での日常業務やスポーツ教室での指導など、多くの市民の方々と直接に触れ合うことにより、スポーツの持つ力および役割について改めて見つめ直す機会を得ることができたのは、貴重な体験でした。

泉大津市内小学校の仲よし学級では、縄跳びなど体育遊びの指導をしました。いろいろな小学校を回ることで、縄跳びひとつにしても学校によってレベルが違い、その学校がどの程度体育に力を入れているのかも知ることができました。子どもの体力低下が問題となってきた中、仲よし学級でも屋外でのスポーツや遊ぶ機会があまりないと聞いていたので、今回はスポーツや外で遊ぶ楽しさを教えることができ、泉大津市のスポーツ振興に少しは貢献できたのではないかと自負しています。

泉大津市主催のスポーツ教室では、いくつかの教室に入り指導や補助をしました。スポーツ教室は、大人の部が 7 教室、子どもの部が 10 教室あり、その他にも短期教室がいくつかあります。参加者は、子どもでは体力の向上、大人では体力の低下や運動不足の解消を目的として来る人が多いようです。一部の専門性がある教室では定員割れがありましたが、健康体操や子どもの運動などの教室では定員人数を上回るほど人気がありました。小さい子どもを対象にした教室では泣いたり、勝手に走り回ったりするなど、予期せぬこともあり、指導・対応の難しさを感じました。子どもの成長にとって 1 年という時間はとても大切だ、と感じることができました。大人の部ではラグビーを教えました。自分の専門種目とはいえ、初めて体験する人に指導することの大変さや難しさを知ることができました。教室では定員がオーバーして参加できない人もたくさんいたので、短期教室などを増やし、日程調整などの対応が必要だと感じました。予算措置の必要があるとは思いますが、若い世代の指導者を育て、増やすことが大事だと思います。

最後に、泉大津市が今後も大学との連携事業をしていくのであれば、学生ボランティアによる連携事業を増やし、もっとスポーツに力を入れる必要があると思います。私自身としては、指導力や指導する上での注意点など、この 1 年で学んだことを、今後、自分が進む道に生かしていきたいと思っています。



# スポーツ連携事業における地域の役割・大学の役割

富山 浩三（大阪体育大学教授、泉大津市社会教育委員）

大阪体育大学と泉大津市は連携協定を結び、スポーツを通じた地域活性化に向けた取組みを開始した。大学は知的資源、人的資源を有しており、これらを泉大津市に提供しながら事業展開をすることによって、泉大津市・大阪体育大学のそれぞれにとって有益な活動ができたと考えている。

スポーツ基本法が平成 23 年に施行され、スポーツが地域社会の再生に寄与する事が明確に示された。その理念に基づき、今年度は「20 歳以上の女性を対象にした教室」や「留守家庭児童会（仲よし学級）」などを実施した。これは、日ごろスポーツをする機会に恵まれない、女性や留守家庭の子どもたちを対象とした事業で、スポーツを通して女性の健康づくりや社会参加、そして共稼ぎ世帯の支援など、市が提供する必要のある大切な支援活動であると考えている。スポーツがそのような地域コミュニティの問題に解決策を提供し、その活動を本学との連携で実施できたことは非常に大きな成果と言える。

また、留守家庭児童会では、連携事業の一環として、児童の体力の向上や豊かな心をはぐくむことを目的に「体育遊び」を導入し、一定の成果を上げている。現在、子どもたちのスポーツに対する取組みが二極化し、スポーツをする児童は保護者に連れられて毎日でも活動しているのに対して、スポーツをしない児童は全くしないという傾向がある。仲よし学級で体育・スポーツ活動に取り組むことは、保護者が直接児童に体育・スポーツの機会を提供できなくても、児童期に必要な運動量を確保し発育・発達のための機会を提供することができる。加えて、平等なスポーツ機会の確保、人間関係構築のトレーニング、ルールの順守を学ぶことができるため、社会性を高めるなどの効果も期待できる貴重な活動となっている。

今後は、市全域で行われているさまざまなスポーツ活動を“点”で終わらせるのではなく、点と点を線で結び、連携を深めていくことが必要である。それによって、種目間の垣根を下げ、世代間の垣根を下げ、組織間の垣根を下げるのが可能になり、風通しの良いスポーツ環境が実現されると思われる。



大阪体育大学



市立総合体育館

# 企画展・講演会 「桃山学院の歴史と文化」

桃山学院史料室 × 市立織編館

## はじめに

博物館連携の最初の事業として実施したのが、企画展「桃山学院の歴史と文化」及び同タイトルの企画展開催記念講演会である。地域と大学の包括連携を進めるにあたり、互いの文化を理解する必要があるとの共通認識から企画・実施した。

### ●企画展 「桃山学院の歴史と文化」

第1回 平成26年12月12日(金)～12月23日(火)

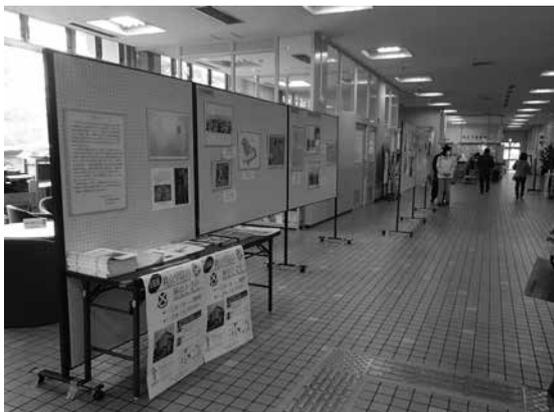
織編館ギャラリー 入館者数 167人

第2回 平成27年2月20日(金)～2月27日(金)

泉大津市役所ロビー 入館者数 700人



織編館展示



市役所展示

●企画展開催記念講演会

「桃山学院の歴史と文化」

平成 27 年 2 月 21 日 (土) 午前 10 時～午前 11 時 30 分

講師：西口 忠 (桃山学院史料室)

場所：テクスピア大阪 3 階第 1 研修室

受講者数 30 人



広報ちらし

平成 26 年度泉大津市・桃山学院大学連携事業

**企画展** 桃山学院の  **歴史と文化**

 **歴史と文化**

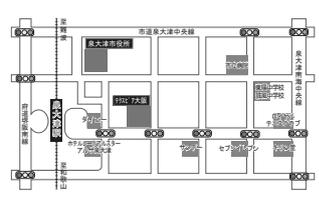
- 第 1 回 12/12 (金)～23 (水) 泉大津市立 **織編館**にて  
10:00-17:00(入館は 16:30/水曜休館) (テクスピア大阪 1F 織編館ギャラリー)
- 第 2 回 2/20 (金)～27 (金) 泉大津市役所 **ロビー**にて  
8:45～17:15(2/20は 12:00～/土曜・日曜休み)

**企画展開催記念講演会**  
**桃山学院の歴史と文化**

**日時** 平成 27 年 2 月 21 日 (土)  
午前 10 時～午前 11 時 30 分  
受付 午前 9 時 30 分～

**講師** 西口 忠 氏 (桃山学院史料室)

**場所** テクスピア大阪 3F 第 1 研修室



■お問い合わせ  
泉大津市教育委員会事務局教育部  
生涯学習課文化財係  
〒595-8686 泉大津市東雲町 9-12  
TEL 0725-33-1131(代表)

泉大津市立 **織編館**  
〒595-8025 泉大津市東雲町 22-45 テクスピア大阪 1F  
TEL 0725-31-4439 / FAX 0725-31-4437  
開館時間 午前 10 時～ 午後 5 時(最終受付 午後 2 時 30 分)  
\*休館日 祭日 年末年始 毎月 3 日

主催 泉大津市教育委員会  
桃山学院大学

(表)



1. C.F.ワレンと息子  
ワレンが責任者である聖徳公会教団  
会館跡は、1884 年大坂川口居留地に  
三小学校和三神学校が開校した。
2. 高等英学校新築校舎開校式  
(1891)  
1890 年、三小学校和三神学校が  
育つたが中絶の学校として高等英学校  
が開校された。
3. G.W.ローリングス  
英国出身、1900 年から桃山中学校の英  
語教師として 32 年間勤務、1920 年か  
ら校長となり、多くの入生に教鞭を執り、  
1933 年、顧問職に退去。

  
泉大津市マスコットキャラクター  
おづみん と ななまる

**地域を結ぶ・歴史をつなぐ・人を創る**

2013 年 7 月 1 日、泉大津市と桃山学院大学は、地域の発展とその基盤となる人材育成に寄与することを目的に、多様な分野での包括連携協定を締結いたしました。本展は、その連携協定にもとづいた事業の一環として開催するものです。包括的な連携を行うためには、お互いを知ることが必要となります。そこで、桃山学院大学の歴史と文化を、泉大津市民の皆さまに知っていただくために企画いたしました。

桃山学院はその母体となる三小学校和三神学校が 1884 年大坂川口居留地に開校し、1890 年には高等英学校が西区江戸堀の仮校舎で開校。翌年、天王寺桃山の地に新築移転、開校式を挙げる。1895 年、現在の名称である桃山学院に改称。1902 年、大坂で最初の私立学校として桃山中学校が開校。1912 年には現在の阿倍野区昭和町に移転し、戦後、新制中学校・高等学校として桃山学院中学校・高等学校となりました。そして、学院創立 75 周年の 1959 年に大学を開学。1995 年には和泉市に大学キャンパスを移転し、今日に至っています。

本年は学院創立 130 周年、大学開学 55 周年にあたります。この記念すべき年に共同事業を開催できることは望外の喜びです。

本展が、地域発展の一助となれば幸いです。

(泉大津市教育委員会・桃山学院大学)



4. 英国風の桃山中学校新築校舎寄宿舎  
1912 年に新築移転した東成郡阿倍野町の校舎。それ以前は、東成郡天王寺村中  
(現称「桃山」)にあった。
5. 現在の桃山学院大学  
1971 年に、堺市豊住 (現称の鶴見野) に学舎移転。さらに 1995 年に全館移転した。

(裏)

①

平成 26 年度 泉大津市・桃山学院大学連携事業

# 企画展 桃山学院の歴史と文化



展示のご案内



桃山学院大学 和泉キャンパス (2009年頃)

主催 泉大津市教育委員会  
桃山学院大学

②

ごあいさつ

2013年7月1日、泉大津市と桃山学院大学は、地域の発展とその基盤となる人材育成に寄与することを目的に、多様な分野での包括連携協定を締結いたしました。本展は、その連携協定にもつた事業の一環として開催するものです。包括的な連携を行うためには、お互いを知ることが必要となります。そこで、桃山学院大学の歴史と文化を、泉大津市民の皆さまに知っていただくために企画いたしました。

桃山学院はその母体となる三一小学校・三一神学校が1884年在大阪川口居留地に開校し、1890年には高等英学校が西区江戸堀の仮校舎で開校。翌年、天王寺桃山の地に新築移転、開校式を挙げる。1895年、現在の名称である桃山学院と改称。1902年、大阪で最初の私立学校として桃山中学校が開校。1912年には現在の阿倍野区昭和町に移転し、戦後、新制中学校・高等学校として桃山学院中学校・高等学校となりました。そして、学院創立75周年の1959年に大学を開学。1995年には和泉市に大学キャンパスを移転し、今日に至っています。

本年は学院創立130周年、大学開学55周年にあたります。この記念すべき年に共同事業を開催できることは望外の喜びです。

本展が、地域発展の一助となれば幸いです。

平成26年12月12日  
泉大津市教育委員会  
桃山学院大学



学園祭(桃山祭)風景

③

桃山学院のあゆみ

- 1884年 英国聖公会宣教師(CMS)、大阪川口外国人居留地(大阪市西区)に三一小学校(Boys' School)創設
- 1890年 高等英学校設立(大阪市西区江戸堀、翌年東成郡天王寺村に移転)
- 1895年 桃山学院と改称
- 1896年 桃山学校と改称
- 1902年 中学校令による認可を受け桃山中学校開校(大阪で最初の私立中学校)
- 1912年 現和泉町キャンパス(大阪市阿倍野区)に移転
- 1947年 新制中学校発足
- 1948年 財団法人桃山学院と改称/新制高等学校発足
- 1951年 学校法人桃山学院認可
- 1959年 桃山学院大学開学(大阪市阿倍野区昭和町)、経済学部経済学科設置
- 1960年 大学 司書・司書補講習開講(文部省委嘱)
- 1962年 学院 桃山学院英語学校開校(大学 大学学歌制定)
- 1963年 大学 第1回卒業証書授与式
- 1964年 学院 学院創立80周年記念式典
- 1965年 大学 船上大学実施
- 1966年 大学 社会学部社会学科設置
- 1969年 大学 開学10周年記念式典
- 1971年 大学 豊美丘キャンパス(堺市西野)に学舎統合、第1回海外セミナー実施(アメリカ)
- 1972年 高校 交換留学生制度(IP)発足
- 1973年 大学 経営学部経営学科設置/短大 短期大学開学(愛媛県新居浜市)
- 1974年 学院 学院創立90周年記念式典
- 1979年 大学 第1回カリフォルニア州立大学クラメント校(CSUS)夏期英語研修派遣、大学開学20周年記念式典
- 1980年 大学 カリフォルニア州立大学クラメント校(CSUS)と学術教育交流協定締結、第1回韓国歴史・文化セミナー実施
- 1981年 大学 啓明大学校(韓国)と学術教育文化交流協定締結
- 1984年 学院 学院創立100周年記念式典、ワレン前墓移転
- 1985年 大学 立教大学のワークキャンプ(フィリピン)に参加
- 1986年 大学 「インド・ワークキャンプ」実施、社会人聴講生制度発足、国際センター設置
- 1987年 高校 英数コース発足/大学 「インドネシア・ワークキャンプ」開始
- 1989年 大学 文学部英語英米文学科・国際文化学科設置、キリスト教センター設置、社会学部センター(現エクスパンション・センター)設置
- 1990年 大学 聖教士礼拝堂(大学チャペル)竣工(開学30周年記念事業)/短大 短期大学開学
- 1993年 大学 文学部研究科英語英米文学専攻(修士課程)・国際文化学専攻(修士課程)設置、経営学研究科経営学専攻(修士課程)設置
- 1995年 大学 和泉キャンパスに全面移転
- 1998年 大学 社会学部社会学科設置(増設)、経営学研究科応用経済学専攻(修士課程)設置
- 1999年 大学 白浜セミナーハウス開設、文学部研究科比較文化学専攻(修士後期課程)設置、経営学研究科経営学専攻(修士後期課程)設置
- 2000年 大学 社会学部研究科社会学専攻(修士課程)設置、大学基準協会相互評価認定
- 2001年 高校 聖アンデルス生協工、国際コース設置(男女共学)
- 2002年 大学 法学部法律学科開設、経営学研究科応用経済学専攻(修士後期課程)設置、セミナー制度実施、外国語教育センター開設
- 2003年 大学 社会学部研究科応用社会学専攻(修士後期課程)設置
- 2005年 高校 ワレン像除幕
- 2006年 大学 経済学部経済学科中国ビジネスキャリアコース・経営学研究科日中連携ビジネスコース開設、文学部研究科英語英米文学専攻・国際文化学専攻・応用言語学専攻の3コースに
- 2007年 大学 和泉市と包括連携協定締結
- 2008年 大学 国際教養学部国際教養学専攻(文学部改組)、大学基準協会より大学基準適合認定
- 2009年 学院 学院創立125周年・大学開学50周年記念式典  
日中連携ビジネスコースに法人入制度設置  
健康コースを文庫コースと改め、男女共学化
- 2011年 高校 文学部研究科比較文化学専攻(修士前期課程)設置
- 2012年 大学 文学部研究科比較文化学専攻(修士前期課程)設置
- 2013年 大学 泉大津市と包括連携協定締結

④



C.F. WREN キリスト教伝道と三一神学校の開校

英国聖公会宣教師



ワレンのギリシャ語新約聖書



C.F.ワレンと息子(1870年頃)

C.F. Wren (Warren, Charles Fredrick 1834-1899)は英国セントマーガートで生まれた。「民間の業草学者」であった父親(Warren, George)は、「大人しく、勉強好き」の息子が「一生進まずい教師」となることを望まなかったという。18歳の時、ワレンはギリシャ語の新約聖書を手にした。2年後、ワレンはロンドンにあるOMイストン・カレッジに入学した。1864年7月、聖職候選を受け、宣教師として最初に向かったのは香港であった。希望通りで1865年1月に香港に着いた。しかし、1868年になると健康上の問題があり、ワレンは帰国することになった。

1873(明治6)年、ワレンは日本がキリシタン禁制を撤去したという情報を得ると、すぐさま宣教師志願をした。スエズ運河経由で神戸に到着したのは1873年12月の始末である。大阪での居住地を定めるため、大阪と神戸間を定期船で往復した。ワレンが住居を定めた川口居留地3番は安治川橋の傍であり、英国領事館も近くに設置されていた。外国語理解に優れていたワレンはすぐに日本語を習得し、1875年1月には日本語による礼拝を司式した。5月、居宅の裏に小礼拝堂を開設した。信徒数の増加にともない、小礼拝堂は手狭になったため、居留地4番に移すことになった。1877年、小礼拝堂があった場所に大きな教会堂が新築になり、翌年、大阪聖三一教会と命名された。

ワレンは地方伝道にも力を入れ、1881年に徳島最初の講義所が開設された。後年、ワレンが訪れた場所は福山、広島、松江、大分、岐阜、東京などであった。

日本人の聖職者を養成するのを感じたワレンは、1882年に自宅で寺澤久吉と山下有任に神学教育を開始した。これが2年後の三一神学校の開校へと発展していった。

1891年、CMSジャパン・ミッションの大坂の責任者として、ワレンはアーサー・レーコン(大牧善)に任命される。1899年6月、福山で事故に遭い、同日8日に発露、福山の浜川墓地に埋葬された。福山の信徒たちにより守られてきた墓碑は学院創立100周年の時、福山から京都霊雲閣外国人墓地に移転された。

⑤

G.W. ローリングス 32年に及ぶ桃山での教育活動  
奉仕精神と生きた英語



G.W.ローリングス校長



同窓会報附名簿と創立30周年記念式辞

G.W.ローリングス (George William Rawlings) は1868年、英国イングランド、ヘレフォードシャー・レミンスターに生れる。1897年、CM神学校 (イズリントン) に入学、1900年に卒業し、執事抜擢を受けた。  
1900年来日、桃山中学校の英語教師として勤務することになった。1903年、大阪府知事監督より長者抜擢を受けた。1907年に、英国に戻り、ダラム大学で学び、バチェラーオブ・アーツの学位を取得する。1909年、再び日本に帰任、1911年から桃山中学校のチャプレンに就任した。1918年、浅野勇校長の辞任に伴い、校長取組となり、1920年、正式に校長に就任した。大阪府下中等学校校長会で、ローリングスは唯一の外国人校長として、「英国の状況」や「英国の学制について」の話をしている。  
1923年、関東大震災の際、大阪移住者に対して、優先的に本校転入を許可した。1932年、陸軍特別大演習のため大阪に行幸中の天皇に特別拝謁を得た。同年12月10日、創立30周年記念式において、出席者はローリングス校長の32年間にわたる労苦に対し感謝を示した。創立30周年記念式辞の中で、ローリングス校長は教育の目的を三つ上げている。1. culture of the mind 精神の修養、2. culture of the body 身体の訓練、3. spirit of service 奉仕の精神の養成。特に「奉仕の精神の養成」における、キリスト教の大切さを説明したのである。  
1932年12月27日、定年により退職をした。しかし、1933年4月7日、福国直前に病のため聖バルナバ病院で逝去。4月10日に牧場があり、日本聖公会大阪教区の聖職者・信徒、大阪府下の各中学校校長、卒業生、父兄など多数の参列があった。1934年11月、校葬の1年半後に桃山中学校同窓会、校友会、父兄有志は阿倍野外人墓地に「ローリングス校長之墓」を建立した。  
多くの卒業生がローリングス校長から生きた英語を学んだと思いを寄せている。また、キリスト教育年会の活動、修学旅行、英国皇太子の来日など、様々な学内行事を通して、生徒たちはローリングス校長と大切なつながりをもった。学内外の多くの人々から慕われた校長であった。

⑥



高等英学校校舎

1890年、西区江戸堀の板敷舎で開校し、翌年、天王寺桃山の地に新築移転、開校式を挙行了。高等英学校では、二一小学校を修了した者が学んだ。卒業後、進路者になるため、二一神学校へ進学する者もいた。



高等英学校開校式 (1891年)

高等英学校開校式の記念写真である。中央に校長の寺澤久吉、右端にC.F.ワレン、後列中央がH.M.C.プライス (校長: 1890~1898年)、その左がC.H.B.ウッド (校長: 1902~1907年)、寺澤のすぐ右が副校長の物 (最初の卒業生) とと思われる。



英国風の桃山中学校新校舎と寄宿舎 (1912年)

桃山中学校は、1902年に開校。高等英学校が桃山学院、桃山学校と改称し、さらに私立桃山中学校となった。木造モルタル造り2階建ての、英国風のコの字型の建物であった。北側に正門があり、校舎の北西隅に講堂、その南側に柔道場、相撲の土俵、北寮、舎監楼、南寮などが立ち並んでいた。

⑦



大正天皇行幸 (1914年)

「語較の設備も完備しているし、十有余年未だ曾て醜聞を耳にせず」(建築も新しく立派である)として、私立桃山中学校が天皇の御講評欄に選ばれた。教職員と生徒は、天皇が行幸する道に歡ぶため、大和川の砂を運んだ。当日、教職員や生徒は校門に通じる道に2列に整列して天皇を迎えた。この道は行幸記念として御幸道と名付けられた。



大阪聖アンデレ教会 (1927年)

桃山学院の礼拝堂でもある大阪聖アンデレ教会は、空襲被害や老朽化のため、1964年に改築された。



大学開学の地 昭和町キャンパス (1961年頃)



パイプオルガン設置 (1990年)

1990年1月に竣工した聖教主礼拝堂 (チャペル) に、同年12月に設置された。高さ6.2m、横3m、奥行き4m、手鍵盤が2段で足鍵盤が1段、英国マンダー社制作。1995年のキャンパス移転の際は、移設された。



登美丘キャンパス アンデレ橋

⑧



和泉キャンパス (北門)

平成26年度泉大津市・桃山学院大学連携事業  
企画展「桃山学院の歴史と文化」

- ①平成26年12月12日～12月23日 織編館ギャラリーにて
- ②平成27年2月20日～2月27日 泉大津市役所ロビーにて

平成26年12月12日発行  
編集・発行 泉大津市教育委員会  
印刷 株式会社近畿出版印刷



泉大津市教育委員会事務局教育部  
生涯学習課文化財係  
〒595-8686 泉大津市南港町9-12  
TEL 0725-33-1131 (代表)

泉大津市の織編館  
〒595-0023 泉大津市津守町22-45 クラスビシアム1F  
TEL 0725-31-4435 / FAX 0725-31-4457  
開館時間 「なまはら」夏より開館(9時～20時)  
「泉大津」夏下 夏: 9時～3時

凡例

1. 本誌は、泉大津市立織編館平成26年度企画展「桃山学院の歴史と文化」の展示案内として、桃山学院史料室の協力のもと、編集した。
2. 解説は、主に「桃山学院創立125周年記念誌」(2009)に拠った。
3. 会期中に予告なく展示物をうつることがある。
4. 掲載写真は、桃山学院史料室の所蔵である。

①

桃山学院の歴史と文化

2014年度大津市・桃山学院大学連携事業  
2015年2月21日  
西口 忠(桃山学院史料室)

(1) 竹鶴政孝:「マッサン」のモデル

- 1894(明治27年) ・竹鶴政孝、広島県竹原町で酒屋(竹鶴酒造)の三男として生まれる
- 1913(大正2年) ・忠海中学校を卒業(第14回卒業生)。 ※池田勇人は第18回卒業生
- 1916(大正5年) ・大阪高等工業学校醸造科卒業、摂津酒造にて働く
- 1918(大正7年) ・神戸港から天洋丸(東洋汽船)にてアメリカ経由でエジンバラへ、グラスゴー大学応用化学科に入学(聴講生)
- 1920(大正9年) ・竹鶴とリタ、登記所で結婚する。キャンベルタウンで実習  
・竹鶴とリタを乗せた船が横濱に着く(日本郵船、伏見丸)  
・ウイスキー醸造計画書作り
- 1922(大正11年) ・摂津酒造を辞職する。リタは帝塚山小学校で英語の教師になる  
・桃山中学校の化学の教師になる(秋～翌年春)
- 1923(大正12年) ・竹鶴、寿屋に入社(10年契約)、翌年山崎工場の起工式
- 1929(昭和4年) ・「白札サントリー」出荷
- 1931(昭和6年) ・養女リマ洗礼(1930.4.12生まれ、大塚聖アンデル教会にて)
- 1934(昭和9年) ・寿屋を辞職する。北海道余市に大日本果汁(株)を創立
- 1940(昭和15年) ・ニッカウキスキー第一号発売
- 1979(昭和54年) ・肺炎のため逝去  
※その他、調査など

(竹鶴政孝と桃山学院との関係)

「それからしばらく浪人生活をした。大正11年(1922年)から12年(1923年)の初めにかけての数カ月間だったが、私にとってはウイスキーづくりを離れた一生で一度の生活だった。その間は学校の先生をした。帝塚山の近くにイングランド出身の教師、ローリング氏が校長をされていた桃山中学があった。妻のリタが、ローリング夫人と親しく交際していたため、失業を心配されて私を桃山中学の化学の教師に採用されたのである。一方、妻のリタも帝塚山学院で英語を教えるかたわら、英語やピアノの個人教授まで頼まれると引き受けていた。」

(竹鶴政孝「私の履歴書」『日本経済新聞』より 1968年5月)

(2) キリスト教の伝道と川口居留地

- 1799年 ・英国聖公会宣教師会(CMS)設立
- 1846年 ・英国海軍琉球伝道会のペッテルハイム那覇に上陸
- 1859(安政6年) ・米国聖公会のJ.リギンス、病氣療養のため来日(長崎)。C. M. ウィリアムスが續いて来日

③

私塾、療養院を設置した。「切支丹高札」が撤去(1873年)された後、1875年頃の川口居留地内は寂しい場所となっていた。暫くすると、空き家になっていた洋館に宣教師たちが移り住むようになり、1884年の川口居留地26区画の内、キリスト教関係の住居、施設が20区画を占めた。キリスト教伝道の拠点となった。1899年、条約改正により外国人居留地は廃止されることになった。川口はその後、川口華商と呼ばれた中国人貿易商が活動する場となり、中華料理店などが多くあった。

4. 川口居留地と大阪の文明開化

大阪の近代化は造船局と川口居留地から広まったといわれる。造船局の設置は、西洋建築、煉瓦、瓦葺き、鉄道、電信、銀行、硫酸などの工業製品など、新しいものを生み出した。一方、川口居留地からは西洋の生活様式が広まった。パン、牛乳、ボンソウ、クリーニング、オルガン、ホテル、西洋料理、理髪、遊園、テニス、サッカーなど。1874年、川口居留地と本津川を隔てた江之子島に大阪府庁舎が建設になった。「江之子島政府」とも呼ばれ、1926年までこの地にあった。

(3) 桃山学院の歩み(大学設立まで)

- 1884(明治17年) ・CMS、川口居留地(大阪市西区)に三一小学校、三一神学校を創設
- 1890(明治23年) ・高等英学校設立(大阪市西区江戶堀、翌年東成郡天王寺村に移転開校式)
- 1893(明治26年) ・本田増次郎副校長就任
- 1895(明治28年) ・桃山学院と改称、翌年 桃山学校と改称
- 1902(明治35年) ・私立桃山中学校開校 ※大阪で最初の認可私立中学校
- 1912(大正元年) ・現昭和町キャンパス(大阪市阿倍野区)に移転
- 1918(大正7年) ・G. W. ローリングス校長事務取扱、1920年 校長に就任
- 1927(昭和2年) ・桃山准教会、昭和町に移転、大塚聖三一教会と改称
- 1929(昭和4年) ・英国護衛艦サフォーク号とのサッカー試合
- 1932(昭和7年) ・創立30周年記念
- 1945(昭和20年) ・第一次大阪大空襲により校舎ほぼ焼失 ※日本橋小学校などで授業
- 1947(昭和22年) ・新制中学校発足
- 1948(昭和23年) ・財団法人桃山学院と改称/新制高等学校発足
- 1949(昭和24年) ・校舎復興
- 1951(昭和26年) ・学校法人桃山学院認可
- 1955(昭和30年) ・勝部謙造学院長就任

(4) 桃山学院の歩み(大学設立以降)

- 1959年 大学 ・桃山学院大学開学経済学部経済学科(大阪市阿倍野区昭和町)、開学式に英国聖公会カントベリー大主教G.F.フィッシャー博士臨席
- 1960年 大学 ・司書・司書補講習開講(文部省委嘱)
- 1962年 学院 ・桃山学院英語学校開校
- 1963年 大学 ・第1回卒業証書授与式/宣教師館完成
- 1964年 大学 ・海外ゼミ(日本国際移動大学)/学院創立80周年記念式典
- 1965年 大学 ・船上大学実施
- 1966年 大学 ・生活協同組合設立/社会学部社会学科設置
- 1971年 大学 ・登美丘キャンパス(堺市西野)に学舎統合/第1回海外セミナー実施(アメリカ)

②

- 1861(文久元)年 ・英国軍琉球伝道会解散、献金剰余金は将来の日本伝道基金としてCMSに寄託
- 1868(慶應4年) ・「五榜の掲示」 ※切支丹禁制の掲示/川口居留地設置(26区画)
- 1869(明治2年) ・ウィリウムズ監督、長崎から大阪に転住/CMSのG.エンゾー、長崎に派遣
- 1870(明治3年) ・ウィリウムズ監督、雑居地の自宅に一小礼拝堂を設置
- 1873(明治6年) ・切支丹禁制の高札撤去/H. ラニング師来阪、翌7年1月に梅本町7番地に「米国伝道会社療養院」/CMSのC. F. フレン師、神戸に到着。年末、大阪に着任
- 1875(明治8年) ・米国聖公会のエディア嬢、雑居地に女学校開校。のち居留地6番 ※平安女学院の始まり
- 1877(明治10年) ・居留地3番に新教会、翌年バードン監督礼拝堂聖別式(大塚聖三一教会)
- 1879(明治12年) ・東洋女子教育協会、居留地4番に永生女学校開校 ※ブル学院の始まり  
・英和学舎、北区上福島に開校。1881年居留地21番に移転、1882年 付属礼拝堂(聖提摩太教会)設立、1887年英和学舎、立教女学校に合併
- 1883(明治16年) ・聖バルナバ病院、居留地8番に完成
- 1884(明治17年) ・カンバーランド長老教会、居留地22番にウキルミナ女学校開校 ※大阪女学院の始まり  
・CMS、居留地12番に三一小学校開校、居留地18番に大阪三一神学校開校 ※桃山学院の始まり  
・幼きイエズス修道士会、居留地1・2番に信愛女学校開校 ※大阪信愛女学院の始まり
- 1886(明治19年) ・川口居留地拡張(10区画)
- 1899(明治32年) ・川口居留地廃止  
※有馬温泉、テニス、英語学校

(外国人居留地)

1. 日本の開港と外国人居留地

1858年、日米修好通商条約の締結。その後、英国などと条約を結び、翌年6月神奈川(横浜)、長崎、箱館が開港になった。しかし、物価上昇や国内不安(攘夷の風潮)を理由に兵庫、新潟の開港、江戸・大阪の開市について延期を求め、使節団を欧州に派遣。その結果、5カ年の延期の覚書を書いた。そして、兵庫・大阪は1868年に開港、新潟が1869年に開港、江戸が開市になった。開港場、開市場には外国人居留地が設置されたが、結果として箱館と新潟には外国人居留地は形成されなかった(雑居地のみ)。

2. 遊歩規程と内地旅行免状

外交官や政府や道庁、民間に雇われたお雇い外国人以外は居留地あるいは雑居地に居住しなければならなかった。居留地外に出るときは、遊歩規程に基づく範囲内であれば自由に移動をすることができた。しかし、規定外(約40km)に出るときは内地旅行免状(パスポート)を必要とした。旅行目的は「学術調査」または「病氣養生」、旅行経路なども記した。

3. 川口居留地

大阪川口居留地が設置された場所は、当時の大阪市中の西端で、少し前まで船番所(御船手)が置かれ、西国からの船舶を監視した。朝鮮通信使や琉球の江戸上りの船も船番所の前を通って、大坂に上陸した。大阪は1868年9月1日に開港となり、川口居留地が外国人に開放された。江戸時代、「天下の台所」として経済の中心であった大阪に期待した外国人商人たちが殺到した。しかし、その期待はずれに裏切られ、外国人商人たちは神戸に移動した。港の不整備、阪神間の鉄道開通、大阪経済の衰退、不正取引に対する厳しい取締りなどである。開港直後に来阪した宣教師たちは隣接する雑居地に住居を確保し、伝道を開始した。小さな礼拝堂や

④

- 1972年 高校 ・交換留学生制度(EF)発足
- 1973年 大学 ・経営学部経営学科設置
- 1974年 学院 ・学院創立90周年記念式典
- 1975年 大学 ・学内研究機関を「総合研究所」に再編・統合
- 1979年 大学 ・第1回カリフォルニア州立大学サクラメント校(CSUS)夏期英語研修団派遣
- 1980年 大学 ・上記同校と学術教育交流協定締結/第1回韓国歴史文化セミナー実施
- 1981年 大学 ・啓明大(韓国)と学術教育文化交流協定締結
- 1984年 学院 ・ワレン師墓碑移転記念/学院 学院創立100周年記念式典
- 1985年 大学 ・立教大学のワークキャンプ(フィリピン)に参加
- 1986年 大学 ・「インド・ワークキャンプ」実施/社会人聴講生制度発足/国際センター設置
- 1987年 高校 ・英数コース発足/大学 「インドネシア・ワークキャンプ」開始
- 1989年 大学 ・文学部英語英米文学科・国際文化学科設置/キリスト教センター設置
- 1990年 大学 ・聖教主礼拝堂(大学チャペル)竣工 ※開学30周年記念事業
- 1993年 大学 ・文学研究科英語英米文学専攻(修士課程)・国際文化学専攻(修士課程)設置/経営学研究科経営学専攻(修士課程)設置/大学院教職課程設置
- 1995年 大学および院事務局 ・和泉キャンパスに全面移転
- 1997年 大学 ・エクステンション・センター設置(社会教センター改組)
- 1998年 大学 ・社会学部社会学科設置(増設)/経済学研究科応用経済学専攻(修士課程)設置
- 1999年 大学 ・白浜セミナーハウス開設/聖マリアレット館竣工/文学研究科比較文化学専攻(博士後期課程)設置/経営学研究科経営学専攻(博士後期課程)設置
- 2000年 大学 ・セクシュアル・ハラスメント防止と解決に関する基本宣言/大学基準協会相互評価認定/社会学研究科応用社会学専攻(修士課程)設置/桃山学院大学環境宣言
- 2001年 高校 ・聖アンデル館竣工/国際コース設置(男女共学)
- 2002年 大学 ・聖トマス館竣工/法学部法律学科開設/経済学研究科応用経済学専攻(博士後期課程)設置/外国語教育センター開設
- 2003年 大学 ・社会学研究科応用社会学専攻(博士後期課程)設置
- 2004年 学院 ・桃山学院史料室設置/大学 ・第1回ホームカミングデー
- 2005年 高校 ・ワレン像除幕式
- 2006年 大学 ・経済学部経済学中国ビジネスキャリアコース、大学院経営学研究科日中連携ビジネスコース開設/大学院文学研究科、英語圏文化学専攻・国際文化学専攻・応用言語学専攻の3コースに
- 2007年 大学 ・和泉市と官学連携の包括協定締結/通学バス「南海和泉大津駅-JR 和泉府中駅-大学」間運行
- 2008年 大学 ・大学基準協会より大学基準適合認定/中学 ・桃山学院中学校開校
- 2009年 大学 ・日中連携ビジネスコース、法人入学制度開始/学院創立125周年・大学開学50周年記念式典
- 2010年 大学 ・司書・司書補講習開講50周年記念講演会・シンポジウム
- 2011年 学院 ・東日本大震災による募金活動  
高校 ・標準コースを文理コースと改め、男女共学化
- 2012年 大学 ・文学研究科比較文化学専攻(博士前期課程)設置  
※桃山学院の卒業生たち

## 研究会

# 泉大津市の文化資源 ～桃大総研プロジェクト報告～

### 桃大総研プロジェクト × 生涯学習課

#### 1. はじめに

泉大津市と桃山学院大学は、平成 25 年 7 月 1 日に包括連携協定を締結し、平成 26 年度中の事業実施に向けて協議を重ねてきた。協議の中で、「活用できる文化資源の把握」が連携事業を進めるうえで必要であるとの意見が桃山学院大学の井上准教授から示され、本テーマによる事例報告会開催に至った。日時は、平成 26 年 8 月 5 日 15 時 30 分～ 17 時、桃山学院大学総合研究所第一会議室を会場とした。泉大津市教育委員会事務局生涯学習課文化財係の村田文幸・奥野美和が報告者となり、桃大総研プロジェクト（14 連 242「大学教育における南大阪の地域文化資源の掘り起こし・保存・活用の研究」）メンバーなど約 10 名に対してレクチャーを行った。

報告では、泉大津市における文化財関連事業の概要を示したのち、泉大津市内に存在する文化資源の具体的な事例情報の説明を行い、連携事業を推進することを前提として今後の活用可能性について言及した。

#### 2. 泉大津市における文化財関連事業概要

泉大津市の文化財関連事業は、文化財保護法、大阪府文化財保護条例、泉大津市文化財保護条例などに基づいて実施している。具体的な活動としては、①市立池上曾根弥生学習館における史跡池上曾根遺跡や弥生時代の発信、②市立織編館における地域産業の毛布や繊維、地域の民具や歴史資料の収集保存展示、③市内埋蔵文化財の発掘調査、④国府市指定文化財・登録文化財・ふるさと文化遺産の調査、⑤古文書調査、⑥民俗調査、⑦「おほつ研究」「埋蔵文化財発掘調査報告書」など研究紀要・調査報告書の刊行、⑧講座・講演会の開催、⑨文化財公開事業の開催、が主なものである。

#### 3. 地域史概観

泉大津市は大阪府南部、旧和泉国泉郡に位置する 13.41 平方km（平成 26 年 7 月 1 日現在）、人口約 7 万 7 千人の都市である。市内の豊中遺跡や板原遺跡では縄文時代の遺跡がみられ、弥生時代に入ると大環濠集落の池上曾根遺跡が出現する。古墳時代には七ノ坪遺跡で集落が営まれ、水田・住居跡・方墳が確認されている。古代では、和泉市の府中町にあったとも伝わる和泉国府の外港として、泉大津の海岸に「おづの泊」が置かれ、海上交通の拠点となった。「泉大津市」の名前の由来は、この「おづ」が「大津」になったとも考えられている。中世では、泉穴師神社やその神宮寺であった薬師寺が勢力を誇り、在地武士の玉井氏、藤林氏、助松氏、板原氏や水軍の真鍋氏などが活動した。近世では、市域に幕府領や大名領が混在した。市域海側には紀州街道が設置され、助松村の田中家が本陣となった。また、市域全体で綿作りが盛んとなり、綿織物業も栄えた。明治時代に入ると、綿織物業にかわって毛布産業が伸長し、戦後は日本製毛布の 98%を泉大津市で製造されるようになった。

#### 4. 泉大津を特徴づける地理環境

泉大津市の文化財を理解する前提として地域史を概観したが、次に地理的環境についても把握しておきたい。

市域の地形は全域がほぼ平坦で、市街化区域になっている。泉大津市を特徴づける地理的環境といえば、市域の西側に大阪湾が広がる点であろう。昭和 30 年代後半から臨海部の埋立が進み、現在、臨海部には埋立地が広がっているが、埋立以前には漁業が盛んに行われてきた。臨海部埋立以前の大阪湾は漁獲量が豊富なことで知られ、古来より「ちぬ(「クロダイ」の意)の海」と呼ばれてきた。

気候は瀬戸内性気候に属し、年平均気温は 17 度前後で、冬季においても氷点下になることは比較的少なく、温暖である。冷害・飢饉が少なく農作物の生育に適した気候のため、綿、サトウキビ、棕櫚竹など特産品となる商品作物を栽培してきた。降雨量は年間 850 ～ 1400 mm程度と比較的少なく、かつては灌漑用の溜池が多みられたが、現在、その大半が埋め立てられている。

#### 5. 文化資源報告

以上の歴史的・地理的背景を把握した上で、具体的な文化資源について概観する。

##### ①史跡池上曾根遺跡

池上曾根遺跡は、弥生時代中期に繁栄した環濠集落で、集落のほぼ中央部に大型掘立柱建物や大型刳抜井戸などがみられる地域の拠点集落である。大型掘立柱建物の柱穴から出土した木材が BC52 年に伐採したことが年輪年代法で判明し、井戸枠とともに池上曾根弥生学習館で展示されている。またイノシシなどの獣骨などとともに魚の骨やタコツボ・土錘などが出土し、海が生活に関わっていたことがわかる。

##### ②曾禰神社

池上曾根遺跡に隣接する式内社で、物部氏の一族である曾根連の祖先神が祀られる。

##### ③池上曾根弥生学習館

弥生時代を体験し、池上曾根遺跡を知るためのメニューを用意した体験学習施設。BC52 年伐採柱や大型刳抜井戸の実物も展示している。

##### ④泉穴師神社

西暦 650 年頃創建と伝わる式内社で、社殿 3 棟と神像が国指定重要文化財。織物の神を祀ることから、市内毛布業者等の尊崇も厚い。飯ノ山神事という、だんじりの上に飯を盛って地域を曳く、中世泉州五社祭礼の名残をとどめる祭祀が残る。

##### ⑤穴師薬師寺

泉穴師神社の神宮寺として、中世には勢力を誇る。海から流れ着いたとされる本尊、薬師如来立像が現存する。

##### ⑥四十九山

中世の在地武士であった玉井氏の墓所と伝わる。五輪塔が残る。牛滝塚とともに、現存する中世墓として貴重である。

##### ⑦牛滝塚

中世の武士で、近世初頭に帰農し助松村の庄屋となった田中家の墓所。江戸時代には海蔵寺があり、田中家累代の墓碑が残る。



池上曾根遺跡



泉穴師神社



助松本陣田中家住宅

#### ⑧助松本陣田中家住宅

紀州街道沿いの助松地区に残る紀州徳川家の本陣建築。田中家は助松村の庄屋でもあることから、庄屋の住宅と本陣建築が融合している。国登録文化財。



浜街道

#### ⑨浜街道

安土桃山時代に開発された大津寺内町の中心を南北に走る通りで、かつては内町筋とよばれた。格子戸の古い町並みが残る。通りの周辺は、江戸時代に木綿織業で栄え、近代には毛布産業が発祥した。

#### ⑩南溟寺

大津寺内の建設を主導した中心寺院である長泉寺が前身。その後、大津御坊と称した後、延宝 6 年 (1678) に現在の寺号が付与された。伯太藩の菩提寺として、歴代藩主の位牌と墓碑が残る。



ロシア兵墓地

#### ⑪ロシア兵墓地

日露戦争で捕虜となり、高石にあった収容所で亡くなったロシア兵 89 人を埋葬している。墓域の一隅には、ロシア皇帝から送られた記念碑「五稜碑」がある。

#### ⑫ブロンズ「緬羊」

昭和 27 年 (1952) に建てられた「毛布のまち」泉大津のシンボル。鳥取県の彫刻家である長谷川塊記の作である。



ブロンズ「緬羊」

### 6. 資源活用の可能性

以上、文化遺産について概観したが、これを連携事業の中でいかに活用するかが必要である。活用し得る可能性について、若干の検討を行いたい。

池上曾根遺跡とその周辺の資源は、和泉市と泉大津市にまたがるため、和泉市に位置する桃山学院大学とは地理的に連携しやすい。泉穴師神社は、平成 26 年度から社殿屋根の葺替工事を実施しており、大学生が文化財修復の現場にふれることができる恰好の機会である。大津寺内地域は、毎年 6 月ごろ「浜街道まつり」が実施されることから、地域ボランティアやイベント出演者としての大学生の参加が期待できる。ロシア兵墓地の調査と活用には、海外連携が盛んな桃山学院大学が有する知的資源や経験を生かすことができないかと考える。中世墓地、田中本陣、ブロンズ「緬羊」など、市域に点在する資源については、地域市民と大学生交流の場をイメージした歴史散策ツールとして活用できる。

このようにみると、その関わり方や扱い方によっては、さまざまな活用可能性があるといえる。だが、具体的な連携事業実現のためには、より詳細な検討を加えなければならない。この報告を契機として、具体的な連携事業の実現に向け、協議を進めていきたい。

## 活動報告

# 学生ボランティアによる地域活動報告 ～つながる地域、広がる笑顔～

泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会

### 1. はじめに

泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会では、大学生が地域に関わることで社会や人間関係を学びつつ、地域の活性化と地域間の連携推進を目的として、学生が参画する地域活動の取組みを実施してきた。本年度は、市民会館での「桜まつり」、健康づくりのためのウォーキングイベント「ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク」、「成人式」の企画運営について、大阪体育大学、プール学院大学、桃山学院大学の学生が中心となり、活動を行った。

### 2. 活動報告

#### ①桜まつり 2014

平成 26 年 4 月 6 日(日)

場所：泉大津市民会館

来場者数：約 3,000 人

#### 概要

「桜まつり」は、桃山学院大学の学生を主として企画立案運営された。基本テーマを「桜」「つながり」とし、地域密着型のイベントとして子どもから大人まで楽しめる内容となった。学生 20 人との打合せを計 14 回行い、当日は学生スタッフ 28 人が運営を行った。野外ステージでは、オープニングに書道パフォーマンスを行った後、小津中学校吹奏楽部演奏、キッズダンス、防犯協議会婦人部など 6 団体がパフォーマンスを披露した。大ホールでは路上ストリートライブ活躍中のソロやバンドによる 9 組の演奏が行われた。小ホールでは、少年少女合唱団、ギター弾き語り、マジックなど 7 団体のパフォーマンスに加え、休憩を兼ねたお花見カフェを開設した。2 階では茶華道連合会による茶道作法の体験コーナーや写真家による記念写真コーナーが開かれた。2 階には作品展示コーナーも設け、南・北公民館利用者や一般公募による「桜」「つながり」テーマの作品の展示が行われた。また、参加型メニューとして、スタンプラリー、毛布の木に桜を咲かせよう、空き缶でおづみんを作ろう、が実施された。



書道パフォーマンス



野外ステージ演奏



実行委員会メンバー

## ②ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク

平成 26 年 5 月 25 日 (日)

場所：泉大津市内

参加者数：353 人

### 概要

大阪体育大学生 6 人を含むボランティア 15 人がスタッフとして活動した。各ウォーキングポイントには、ペットボトルキャップ・古新聞・牛乳パック等を再利用した「エコ」がテーマのミニゲームを設置し、参加者に「エコ」を意識してもらう取組みを行った。スタッフが参加者とハイタッチをしたり、年齢を超えた対話を持つなど、地域と深く関わる行動を行うことで、大学生や参加者が地域と積極的に関わった。



## ③平成 27 年成人式

平成 27 年 1 月 12 日 (月)

場所：泉大津市民会館

出席者数：711 人

### 概要

新成人に加え、大学生ボランティアを中心とした「成人式企画委員会」が式の企画・運営に携わった。司会は、プール学院大学の大学生が務め、泉大津市マスコットキャラクター「おづみん」の着ぐるみは大阪体育大学の大学生が着用し、パフォーマンスを披露した。



成人式司会を務める大学生



着ぐるみでパフォーマンスをする大学生

## 対談

# 行政と大学がタッグを組む ～地域と大学の未来と可能性～

井上 敏 （桃山学院大学経営学部准教授）

富田 明德 （泉大津市教育委員会教育長）

司会 村田 文幸（泉大津市教育委員会事務局）

### はじめに

平成 25 年度より協議期間を経て、平成 26 年 9 月から具体的に泉大津市と桃山学院大学との連携事業がスタートした。事業を推進するにあたり、発展的な連携のあり方について、桃山学院大学経営学部准教授で博物館学芸員課程主任の井上敏と、泉大津市教育委員会教育長の富田明德が、両事務局を代表して対談を行った。対談は「行政と大学がタッグを組む～地域と大学の未来と可能性～」と題し、平成 26 年 10 月 1 日、泉大津市役所教育長室にて午前 10 時から約 1 時間 30 分にわたり実施した。本稿はその報告である。



井上准教授



富田教育長

### 1. 連携事業の現状と課題

**村田** 連携事業の現状と課題についてお話ししたいと思っています。市・大学それぞれの立場からメリット・デメリット、ハード面・ソフト面からお話してください。まずは、富田教育長から、泉大津市からみた連携事業の現状と課題についてお願いいたします。

**富田** 基本的にデメリットはありません。現状の中では、短期的なメリットだけを求めて進めてきたように思います。例えば、不登校の子どもに対して、比較的世代の近い学生ボランティアに関わっていただくために大学生の力を活用する、というようなところから始まりました。大きな枠組みから始まったのではなく、小さなパーツから始まったために、めざすところが不明確ではなかったと思います。

教育委員会はこれまでも桃山学院大学をはじめ大阪体育大学やプール学院大学と、大学の研究室単位ぐらいで連携事業を行ってきました。市の方針として、今後、新たに連携大学を増やそうとする中で、到達目標の設定も必要になるだろうと思います。

これまでの個別の連携事業については大きなメリットがありました。しかし、連携事業を社会教育という枠組みの中でトータルに考えようという議論が出てきた今、その議論の方向性はスポーツ・文化・公民館・文化財などすべての社会教育に大きな影響を及ぼす可能性を含んでいるといえます。連携事業の拡大については、大いに期待するところです。その意味では、これから連携事業を進める上で大きな目標設定が必要になると思います。

**村田** 桃山学院大学さんからみた連携事業の現状と課題はいかがですか？

**井上** まず現状ですが、18歳人口が減少している中で、大学では学生を確保するのが最大の課題となっています。そのため、大学側でいうところの地域連携には、学生確保の意味合いも含まれます。つまり、地域に大学を知ってもらうための地域連携です。大学を周知する中で、文部科学省からは教育の質ということをよく言われます。教育の質を担保する場として、泉大津市さんをはじめ、堺市さんや和泉市さんなど他市さんとも包括連携を結んでいます。

桃山学院大学が泉大津市さんと連携するメリットというのは、その学びのできる「場」を提供していただくということになります。その、「場」の提供ということが最大の目的にもなります。

はじめ大学連携のお話は、泉大津市さんから私にありまして、それを大学側に伝えたときに、経費云々より「学生にとってメリットがあるか」ということを聞かれました。大学側も教員・職員合わせてその点を大変気にしています。大学が学生にさまざまな場を提供していくことが大学の魅力につながりますし、そこを地域連携でできればと考えています。

また、連携のデメリットというわけではありませんが、連携がシステム上困難な点がございました。それは昨年度、泉大津市さんから地域連携のお話をいただいたときに、泉大津市さんの施設、織編館や池上曾根弥生学習館など博物館に学芸員や教職員を派遣できませんか、というご提案をいただきましたが、桃山学院大学ではそのような雇用は難しいですね。一度雇用すると定年まで雇用するのが前提ですし、また、短期雇用のシステムもありません。したがって大学からの人員派遣ということに対しては本学では対応ができない、ということがあります。

## 2. 理想の連携像

**村田** 現状と課題について、それぞれお話しいただきました。富田教育長からは、短期的なメリットを求めている現状を変え、社会教育全体を視野に入れ

た到達目標の設定が必要だ、とのお話しでした。また井上先生からは、学生確保と教育の質を担保するために、学生の学びの「場」の提供を地域連携に期待する、とのお話しでした。

これらのお話しを踏まえ、理想とする連携のあり方があると思います。市から大学に期待すること、大学から市に期待することを、双方が持っている素材の活用を交えてお話してください。

**富田** 今、学生さんのお話がありました。市としては個別の学生さんとの連携を行ってきました。そして先ほど、井上先生から「場」の提供というお話しもありました。この点は、一致した連携の方向性だと思います。場にはいろんな場があります。社会教育施設の場面もあれば、学校教育の場面もある。例えば、不登校の子どもがいる適応指導教室のような場面にも連携大学の学生さんに来てもらっています。各学校の学習支援に入ってもらっていることもあり、具体的な地域連携が着実に実施されております。



織編館



池上曾根弥生学習館



桃山学院大学

学生さんに場を提供するということに加え、最近よく「考え方を変えなければいけない」と思うことがあります。大学の先生方の知見を活用するという点を入れることはできないか、ということです。地域の皆さんの中には大変よくいろんな研究をされている方がたくさんおられますが、市の行政はといえば、いまだ旧態依然としているところが多く残っています。何か事業をするときには、日本で一番進んでいるところのやり方を、行政がきちっと頭に入れて計画・実施するということが大切ではないかと思えます。何かを改善や改革をしていくときに、周辺他市の状況はよく見ますが、そもそも理想は何かというときには、大学の先生方は研究もされておられるし、広く海外も含めて事例などもよく知っておられるので、その知識を活用する。だから、学力ならフィンランドだとか、ICTなら中国や韓国だとか、いくら小さな泉大津市であってもめざすところはやはりナンバーワンです。だから、学校現場から教育委員会に來ている指導主事や博物館学芸員のように専門性を持った人材もおりますが、それだけでは足りないのです。だから、大学の先生方の知見をもっと活用したい、というのが私の考えです。

学生さんの活用に加え、大学の先生の提案によって、地域の協力も得てまちづくりをする、泉大津市の社会教育全体が変わっていく、そういうところをめざしたい。何かやるときに先生方からいろいろ教

えていただくと、目からウロコが落ちることもしばしばあります。周りの市ばかり見ていると、なかなか現状の域から抜け出せないと思います。

**井上** 現実とのギャップもありますが、そもそも大学とはどういうところかということ、教育と研究をするところなんです。大学の教員は研究者でもあるので、研究成果の還元と活用をしたいという理想をもっています。その研究の部分が、現実に動く制度として、地域連携の中で活用できればいいと思います。

ただ、本学は理系がありませんので、文系学部の持っている潜在能力を引き出していただけるような形を考えざるを得ません。現在、本学では、かつていくつかあった研究所を統合した総合研究所という機関を持っています。ここを活用することで、市と共同で運営できるようなシンクタンクというか、研究機構ができればというのが、私の考える一つの理想です。

**富田** 市と共同でできるシンクタンクというお話ですが、本市の利点は「小さい」ということだと思うんです。堺とは違って面積も人口規模も小さい。したがって、先生方が何か研究をしたい実験をしたいというとき、実験の場として活用していただければ、準備が容易だし、予算も比較的少なくて済むし、結果もスムーズに出るということになります。新しいことをやっていこうという機運もあるので、モデルとなる学校園の提供もできるかもしれません。「なんでもやってください」とは言えないかもしれませんが、調整しながらやれることがあるのではないかと感じます。

制度改革や、公民館などの公共施設をどうするかという問題があるときに、大学が入って建物を建て替えたり、実験的なことをやっているところはたくさんありますが、泉大津が同じようにできるわけはありません。ハード面とソフト面がマッチするような公共施設、社会教育施設、学校教育施設のあり方の模索を、ぜひ大学の専門的知見を活用しながら進めていきたいなと思いますね。

**村田** 大学側からみて、具体的に活用できそうな施設が泉大津市にありますか。

**井上** 難しいご質問ですね。市の施設が市の規模のわりに数が多いように思いますね。

**富田** 多いです。今、公共施設の適正配置の方針を市が作ろうと取り組んでいます。市議会にも方針案が提出され、施設の多機能化、複合施設の整備などを議論しています。

**井上** スケールメリットと住民数などから、身の丈にあった施設の大きさにするという考え方ですよ。

**富田** その通りです。市で大きな方針をつくりましたが、今度はそれに基づいて、約 50% が教育委員会の所管といわれている公共施設を具体的にどうするのかという問題があります。

**井上** 歴史的に由緒ある学校が統廃合で無くなった例なんかみると悲しくなりますが。

**富田** 本市では、いまのところ学校は統廃合の対象にはなりません。ただ、14 歳未満人口が今は 1 万 2 千人くらいいるんですが、これが 7 千人を切る時期が来るんですよ。25 年くらい先ですが。そうなると、出てくるかもしれません。

**井上** そのときは大学もどうなるかわかりませんね。

**村田** 年齢のお話が出ましたが、公共施設を利用している人は年齢層も職業も違うと思いますが、そこに学生が関わるような連携、学術的な方法を取り入れた連携などは想定できますか。

**富田** 公民館なんかは難しそうですが、体育館はまさに学生さんが関わることでメリットを生み出すようなイメージがありますね。小中学校とか幼稚園は教育実習的な場も提供できるし、経験も積んでいた



井上准教授

だけだと思います。そこで経験を積んだ学生さんがいい人なら、そのまま市に残って欲しい、という要望はありますよね。もちろん採用試験はありますが、大学時代から泉大津市の幼稚園や保育所でボランティアをしている方なら、その人となりも分っているし、「この人なら採用したい」ということもできますね。合格しなくてもそのまま講師をしていただくということも考えられます。

**井上** 就職に関しては、学生さんはすごく熱心でエネルギーを発揮しますので、連携事業の中で就職のスキルを身につけることができるのは、とても良いと思います。

**富田** 正式に採用されるまでには講師経験を積むこともできますね。

**井上** 桃山学院大学の学生さんは地元志向がかなり高い学校なので、地元で教員をやりたい人にとってはいいマッチングになると思いますね。

**富田** ただ、社会教育施設全部に学生さんがヒットするかというと、そうではありません。博物館なんかは連携可能な部分もありますが、その後正式に職員になるというルートについては難しいと思います。

### 3. 国際交流と地域連携

**村田** 桃山学院大学さんは外国語教育の分野に力を入れておられますが、国際交流を取り入れた連携の可能性はありますか。

**井上** 国際教養学部では留学を推進していますし、経済学部の中国ビジネスキャリアコースでは中国の南通大学への留学が組み込まれていますので、語学が堪能な学生はいると思います。

**富田** 桃山学院大学さんの国際センターがホームステイ先を求めているという話を聞いたことがあり、桃山学院大学さんには留学生が沢山いるというイメージを持っています。

**井上** 最近は韓国・中国が多い感じですね。欧米の方は減少傾向になっています。円高も関係あるんだと思いますが。泉大津市さんの姉妹都市はどこですか？

**富田** 海外友好都市はオーストラリアのグレータージローン市です。国内では和歌山の日高川町です。

**井上** 姉妹都市になった理由みたいなものはあるんですか。



池上曾根遺跡を訪問するグレータージローン市の中学生親善訪問団

**富田** グレータージローン市は羊毛の積み出し港なんです。泉大津は毛布産業が地場産業なので、それを受ける側です。メルボルンから車で30分くらいのところで、ウールミュージアムもありますし、ジローンウールをブランドにして国内のアパレル企業もありますね。泉大津市の事業でも、私も個人的にジローン市から来られた先生をホームステイで受け入れたことがあり、それが良い刺激になりました。留学生との交流というのは、すごくいい影響があります。中学校同士の交流をしている私立のジローンカレッジとの取り組みでは、子どもたちや先生が来たり行ったりということを3年サイクルで行っています。この国際交流は大変メリットが大きいです。今は学校園に英国教育の充実のため市がALTを入れていますが、例えば留学生との交流なんかも面白いかもしれませんが、学生といえば日本の学生だけをイメージしていましたが、留学生が関わった国際的な取り組みもありますね。

**井上** 私が関わった中に国際ワークキャンプというのがありました。それはインドネシアの貧しい地域に学生たちが入ってボランティアするという取り組みで、私はその引率をやったことがあります。桃山学院はキリスト教の学校なので、こちらで費用を負担してあくまでボランティアとして現地に行く方が主体ですが、現地では児童養護施設整備作業や行事運営などを共同で行いました。

**富田** インドネシアの子どもたちというのは、高校生や大学生もいるんですか？

**井上** 小さい子どもたちです。こちらからは大学生が行って、小さい子どもたちと関わります。

**富田** 子どもたちに新しい刺激を与える取り組みは良いと思います。ジローン市から来られる時期は、ちょうど秋ごろですが、体育大会などに一緒に参加してもらったりするんですけど、中学生にもいい影響が多いですね。毎年はなかなかできないんですが、市

の中に国際交流協会もあり、ジローン市との交流は20年くらいやっていますが、教育委員会独自で小さくやっているの、そこからなかなか広がらないという問題も抱えています。留学生も含めた国際交流の取り組みは、小さな泉大津だけではない世界に目を向け、そこから出て行くようなきっかけになるのではないかと思います。

**井上** 最近は学校でも内向きの子が多いですか？

**富田** 内向きな子が多いかどうかはわかりませんが、10年くらい前の国際交流では、海外へ行きたい人も海外から受け入れる方も抽選だったんです。今は募集しなければ集まりません。それは経済的な問題もあります。最初は市も多くの補助金を出していましたが、それがどんどん減ってきた現状もあります。

**井上** 大学生についても、現状維持ではなくもっと殻を破ってほしいと思っています。

**富田** やりたいことを見つけていく中の一つに、交流ということがあると思います。交流により刺激を与えて、「自分のやりたいことはこれだ」というものを見つけ、それに没頭していくというような、そういう経験を積ませるためにもいろんな資源を投入していくことが必要だろうと。ただ、公民館とかは難しい。



桃山学院大学生インドネシアボランティア活動  
(『桃山学院大学案内』2014より)



富田教育長

**井上** 大学の先生はともかく、学生たちにとって公民館は敷居が高いと思っているし、自分が来るところではないと思っていますね。そこをどうするか。公民館は利用者の年齢層も高いですし、その方にジロツとみられただけで学生たちは委縮してしまうかもしれません。

#### 4. 連携プログラムの可能性

**村田** 具体的な連携プログラムの可能性についてお話しいただけますか。

**井上** 桃山学院大学ではなかなかできないことをやりたいと考えてます。たとえば文化財の分野では、私も他の場所でいろんな文化財セミナーや文化財修復コースの講師なんかをやっていますが、学内にはないんですね。そんなことを外の連携で組めないかなと考えています。全国的に見ても、いま文化財学科関係のコースが減少しているんですね。その中で、あえてやってみようと考えています。

**富田** 文化財の修復というのは一定の需要があるような気がするんですが、どうなんでしょうか。



泉大津駅前付近

**井上** 一定の需要はあるんですが、まず学校が多すぎたという点があったと思います。そして、もうひとつは、その学校を出て仕事としてやっていきたいという人は非常にコアな存在で、文化財のコースを出たからといっても文化財修復を仕事にするという流れにはなっていないんです。やりたい人は多いんですが、そこに行きつくまでに挫折する場合も多いですね。

**富田** 歴史ファンって多いじゃないですか。リタイアした人の中には、古文書を読めるようになりたいとかあると思います。難しいものではなくても興味を持っている層はあると思うんですが。

**井上** そうですね。大学の正規授業としては組めなくても、社会人向けのエクステンションセンターの中でやろうという話は学内でもしています。どうなるかは分かりませんが、あまり費用がかからないものならばニーズはあります。

**富田** 南大阪コンソーシアムという形で、連携大学のサテライトを泉大津市に置いてはどうか、という話もありましたね。

**井上** 泉大津市さんに大学を招致しようとした場合、アクセスの問題が出てきます。例えば池上曽根遺跡を見学に行くので、現地集合と学生に言っても、行きたがらないんです。大学も池上曽根遺跡も同じ和泉市内なのに。学生の中には原付バイクで簡単にやってくる人もいますが、多くは、時間かけて行くのを嫌がる人も多いんです。アクセスが良くないと社会人の人を呼び込むのも難しいと思うんです。

**富田** いろんな理想がある中で、どうやって実現するかを考えたときに、大学が身近になるということが大切だと思います。大学が身近な存在になり、学生さんがいつも身近にいるという環境で、アクセスも良い。そうすると、先ほどのお話しでもありました留学生との国際交流もできるのではないかと想像しますね。泉大津は南海沿線ですが、大変多くの学生さんが毎朝、泉大津駅前からバスに乗って桃山学院大学さんへ行かれるんですよ。こんなにたくさん学生さんが中継していくのに、通過していただくというのは残念です。泉大津市から桃山学院大学までは車で30分くらいです。和歌山方面から来る人も泉大津を経由して大学へ行く。桃山学院大学さんも含めて周辺大学の学生さんを素通りさせずに、うまく取り込めないかと思います。池上曽根弥生学習館で大学の文化財の授業があったり、市民会館で会場提供しつつ複数大学の授業があれば面白いですね。

**井上** しかも、その授業には、泉大津市民であれば誰でも参加できるとすれば、市内の施設を活用する人の流れはできますよね。私は少し前まで、大阪府立弥生文化博物館の展示リニューアルの委員をやってまして、どうやって入場者を増やすのかという議論をした中で、座長が大手前大学の先生だった関係で、大手前大学さんでの授業を弥生博物館でやったことがあったんです。学生さんに加えて社会人の方も聴講できるというものでしたが、1年で終了しました。かなり高度な内容をやってましたね。桃山学院大学にも私が話を持っていったんですが、教務上で

きないということで、実現しませんでした。外で事故が起きた場合、大学で責任が取れないからという理由でした。ですから池上曾根弥生学習館で授業をするということも現状はなかなか難しいでしょうね。

**富田** 学生ではなく、市民の講座としてやるのは差支えないんですよね。学生さんが単位としてとか、カリキュラムとしてとかになると難しいということですか。

**井上** 市民向けの講座であれば問題ありません。大学の単位ということになると、教務上の問題に加えて、先ほど申し上げたアクセスの問題やお金の問題があります。大手前大学だとキャンパスが西宮市なので、大阪市を越えてこなければいけないので、なおさらです。

## 5. 連携事業が目指すもの

**村田** 最後に、連携事業がめざす到達目標と、その手段についてお話しください。

**富田** 現状、さまざまな分野で連携を進めています。泉大津市も大学も人事異動などで人も環境も変わっていく中で、うやむやのうちに消えてしまっただけではいけません。例えば10年くらい先にはこういうところをめざす、というようなトータルな連携の絵柄を泉大津市として想定して、実施した事業は必ずそこへ書き込んでいく、そして、書き込んだ事業の推移を管理していく、というようなことが必要ではないかと思います。もちろん、状況が変わることもあるので、5年後に見直すということでも良いんですが、少なくとも盛り上がっている今の状況を、このまま雰囲気だけで放っておくと、いつのまにかなくなっただけということになりかねません。それではいけない。長続きしていくために、システムや計画化が必要ではないかと思います。

**井上** 明確な目標に向かって到達するまでの過程を決め、それをしっかり伝えていくということは必要でしょうね。地域連携ということに戻せば、もともと泉大津市さんは決して地域の活性化をやっていないわけではなくて、むしろ、街を歩いてみるといろんな取り組みをやっておられると思います。積極的に関わっておられる方も他の地域に比べて結構おられる、そこは強いなとおもいました。

**富田** 古い歴史がありますからね。

**井上** 蓄積があると思います。その蓄積をどう活用していくのかだと思います。そこを立ち上げることはすでにされている地域だと思います。

**富田** それが高齢化しているんですよね。

**井上** 新たな人の流入ということですよ。お隣の和泉市なんかは元から居る住民の方とニュータウンの住民の方が居るので、それはそれで摩擦はありますが、世代的には継承されている部分があります。一方泉大津市さんの場合は若い人が出ていって、ご年配の方が元気に頑張っているというふうに見えるんです。

**富田** それは住んでいないということではなくて、仕事ではあまり地域に関わらないということですね。一方で、だんじり祭りがあって、コミュニティは維持されているんですね。その辺がおもしろいし、



だんじりまつり

その辺をどうするかですね。古いものが微妙に残っていて、かつての状況には戻れないことは分っているけど、どこかで戻りたいと思っている感じ。

**井上** ノスタルジーですね。

**富田** その状態を認識しつつ、新しい方向をめざすために大学の知見を活かしたいということを期待しているんです。

**井上** まさにそこが、連携事業が向かうべき方向なんでしょうね。

**富田** 私たちは、学生さんにいろんなことができる場を提供していく。今の連携を拡大していきながら進めていくときに、教育分野だけではなくて、連携事業がまちづくりの一端を担うという観点を忘れてはいけないと思います。まちづくりという観点で、場の提供、知見の活用を進めるということです。

**井上** WIN-WINの関係ですね。まちづくりはすごく広い概念ですけど、その中でコミュニティをどうしていくかを要求されているんだと思います。

**富田** その観点で史跡公園の活用や資源の活用など具体的な取り組みをしていけたらと思いますね。例えば、「弥生学習館が泉大津市にとって重要な施設で、地域コミュニティの拠点である」という位置づけがないと、池上曾根弥生学習館という文化的な施設が縮小や廃館になってしまう可能性もあるんです。お金儲けとか、そういう観点だけではなくて、文化的なまちづくりという視点がないと、将来生き残っていけないと思うんです。

**井上** 新しい価値観を示して、それを伝えていかなければいけないと思います。私の専門は博物館経営ですが、博物館というのは本来儲かるようにはできていないんです。それだけのお金を投入しても「意味のある施設なんだ」ということを示すことが大切

なんです。その点でいえば、池上曾根弥生学習館を例にとれば、府立弥生文化博物館に負けなくらいのインパクトが必要かもしれません。

**井上** 以前に、某市の市長が本学で講義されたこともありました。そういった取り組みもできますね。文化財の方では、来年度、泉大津在住の戦争体験をされた方に学生たちが聞き取り調査をするという事業を計画しています。戦争体験を聞くということは、学生にとって非常に大きな経験になると思うんです。ゼミないし講座での募集要項の中にも泉大津市さんとの連携で、そういうことをやりますと、書きました。

**富田** 大学の知見を生かすという連携に加え、地域の保有している歴史的資産を生かす連携ができれば、これほどうれしいことはありませんね。

**井上** 地域と大学が互いに影響を及ぼしあいながら、双方がいい方向に進んでいけたら、本当に素晴らしいことだと思います。

**村田** 本日は、ありがとうございました。

(平成26年10月1日収録)



握手を交わす井上教授と富田教育長

## 泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会設置要綱

### (設置目的)

第1条 この要綱は、地域コミュニティの再構築に係る大学連携事業に関する覚書第3条の規定に基づき、大阪体育大学、プール学院大学・プール学院大学短期大学部、桃山学院大学（以下「三大学」という。）及び泉大津市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が連携して、地域課題を抽出し、課題解決に向けた取組みについての支援を行うことで、社会教育活動の活性化を契機として、地域の絆や地域コミュニティの再構築及び地域全体の活性化を図ることを目的として、泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### (協議事項)

第2条 協議会は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる事項について協議する。

- 1 教育委員会と三大学が協力して行う地域発展の事業及び課題解決に向けた調査・研究に関すること。
- 2 教育委員会と三大学及び市民との相互の交流を推進する事業に関すること。
- 3 その他目的達成のために必要と認める事業に関すること。

### (組織)

第3条 協議会委員は、大阪体育大学、プール学院大学・プール学院大学短期大学部、桃山学院大学及び教育委員会が指名するものをもって充てる。

### (会長)

第4条 協議会に座長を置き、委員の互選により選任する。

- 2 座長は、会務を総理する。
- 3 座長に事故あるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。

### (会議)

第5条 協議会は、座長が招集する。

- 2 協議会においては、座長が議長を務める。
- 3 協議会は、必要があると認められるときは、委員以外の出席を求め、その意見を聴くことができる。
- 4 協議会は、座長（座長に事故あるときは、その職務を代理するもの）及び半数以上の委員の出席がなければ、会議を開くことができない。

### (事務)

第6条 協議会に関する事務は、泉大津市教育委員会教育部生涯学習課において処理する。

### (雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議により定める。

### 附 則

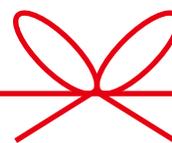
この要綱は、平成26年8月25日から施行する。

地域と大学を——



平成 26 年度  
地域大学包括連携事業報告書

発行日 / 平成 27 年 3 月 31 日  
執筆・編集 / 泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会  
印刷 / 株式会社 明新社  
発行 / 泉大津市教育委員会・三大学連携推進協議会  
〒595-8686  
大阪府泉大津市東雲町 9-12 泉大津市教育委員会生涯学習課内  
TEL 0725-33-1131  
FAX 0725-33-0670



むすびました。